ライオン誌（毎月20日発行）第56巻第4号 2013年9月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP OCTOBER 2013 10

今月のTHEME

ライオンズクラブ統計

Follow Your Dream.

ライオン誌日本語版委員会主催

ライオンズ若手会員フォーラム「夢を追いかけよう」参加者募集

ライオン誌日本語版委員会は2014年2月号のTHEME企画として、「ライオンズの夢」について考えるフォーラムを開催致します。バリー・J・パーマー国際会長のテーマ「夢を追いかけよう」にちなんだこのフォーラムは、ライオンズの将来を担う若手会員の皆さんを参加対象とし、10年後、20年後を見据えて夢を語り合い、その実現に向けて何をすべきかを議論して頂きます。全国の仲間と交流の輪を広げる機会ともなるフォーラムに、ぜひご参加ください。

【募集要項】

日　　時：2013年12月1日（日）11:00〜17:00

会　　場：日本印刷会館（東京都中央区新富1-16-8）

参 加 費：3,000円（昼食代・飲み物代・資料代）

参加条件：開催時点で50歳未満の会員

応募方法：下記の内容をEメールで送信してください。

■氏名　■クラブ名　■生年月日　■入会年月

■Eメール・アドレス（携帯メールを除く）　■電話番号

送信先：edit@thelion.jp

応募締切：2013年11月1日（金）＊参加者定員50人に達し次第、応募を締め切ります。

LION MAGAZINE IN JAPAN
October 2013, Vol.56 No.4

We Serve CONTENTS

■2013年10月号
表紙
愛媛県内子町
弓削神社 太鼓橋
写真／鈴木秀晃

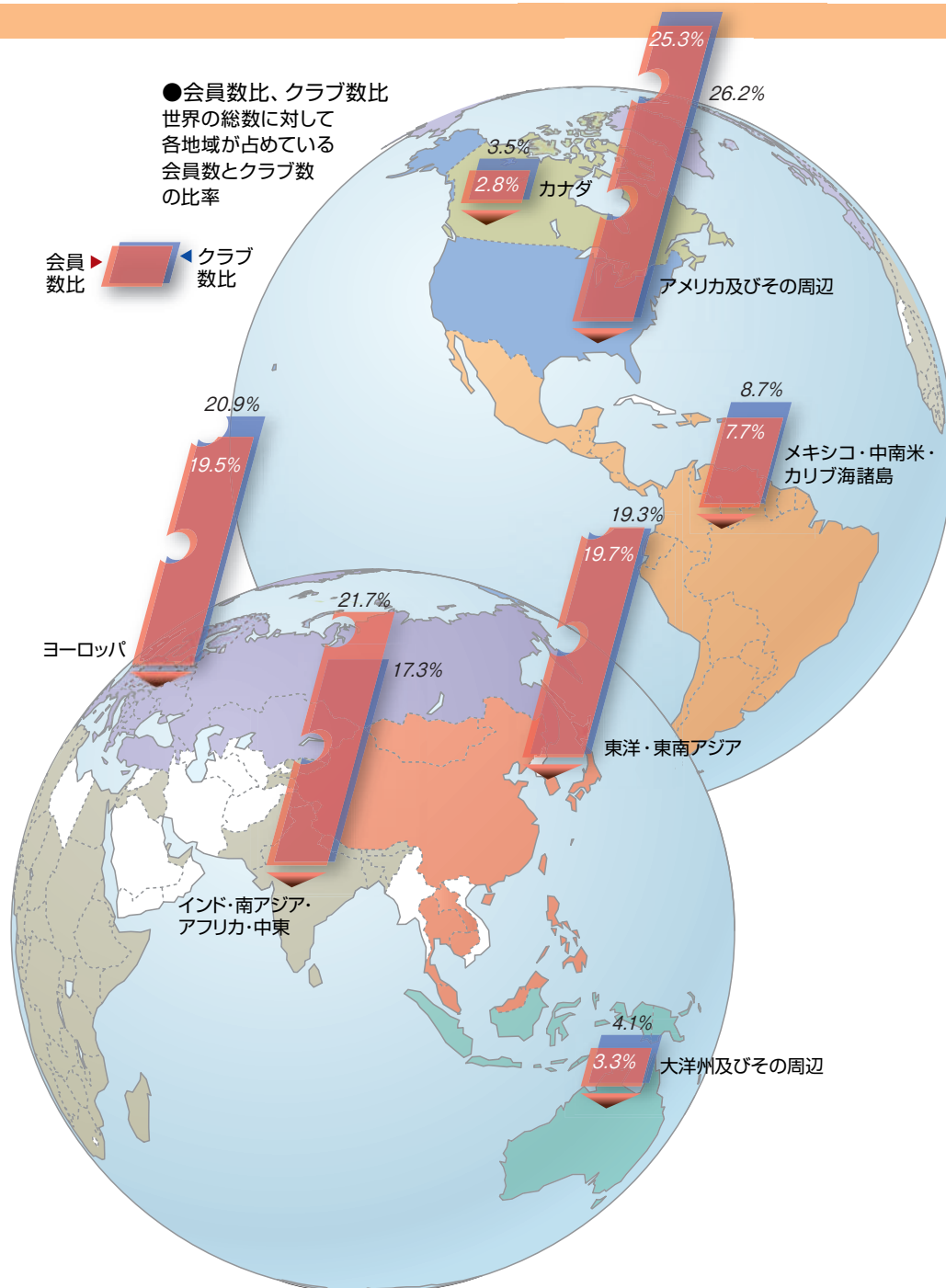
本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

THEME

2012-13年度 ライオンズクラブ統計

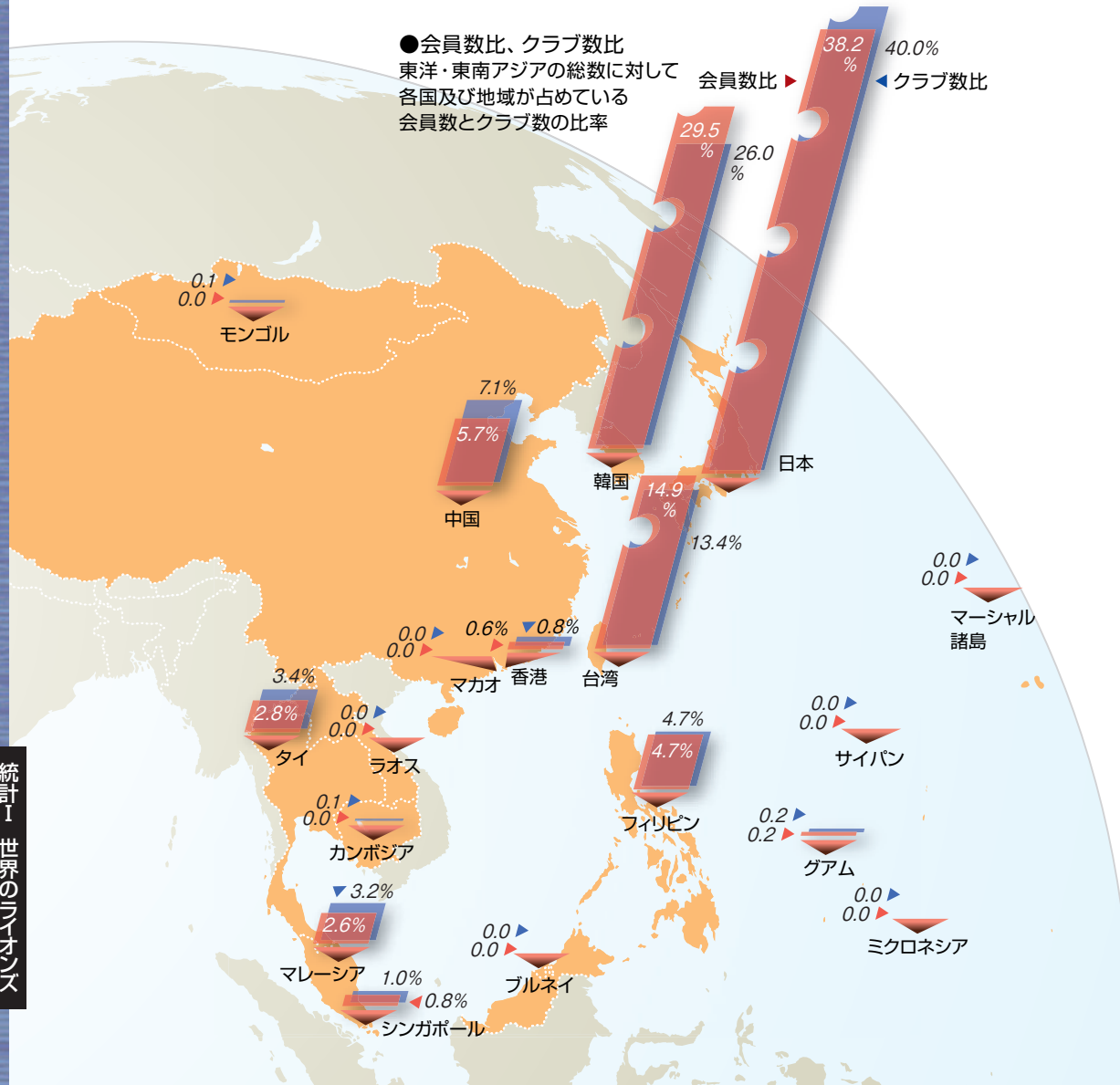
世界と日本のライオンズクラブの情勢、クラブ・アンケート調査結果、アクティビティ年間集計を掲載

各地域の情勢

［2013年6月30日現在］国際本部集計

地域	クラブ数	結成	解散	純増減	会員数	新入	退会	純増減	女性会員数	女性会員の割合(%)
アメリカ及びその周辺	12,123	112	375	-263	341,862	37,544	47,096	-9,552	92,632	27.1%
カナダ	1,613	8	28	-20	37,629	4,150	4,672	-522	10,136	26.9%
メキシコ・中南米・カリブ海諸島	4,035	152	116	36	103,103	17,225	14,956	2,269	43,639	42.3%
ヨーロッパ	9,654	121	139	-18	262,678	20,699	24,408	-3,709	50,976	19.4%
インド・南アジア・アフリカ・中東	8,929	701	679	22	292,389	69,143	58,692	10,451	69,589	23.8%
東洋・東南アジア	8,004	300	260	40	265,243	49,003	47,919	1,084	54,143	20.4%
大洋州及びその周辺	1,880	49	48	1	44,499	6,524	6,516	8	14,112	31.7%
合計	46,238	1,443	1,645	-202	1,347,403	204,288	204,259	29	335,227	24.9%

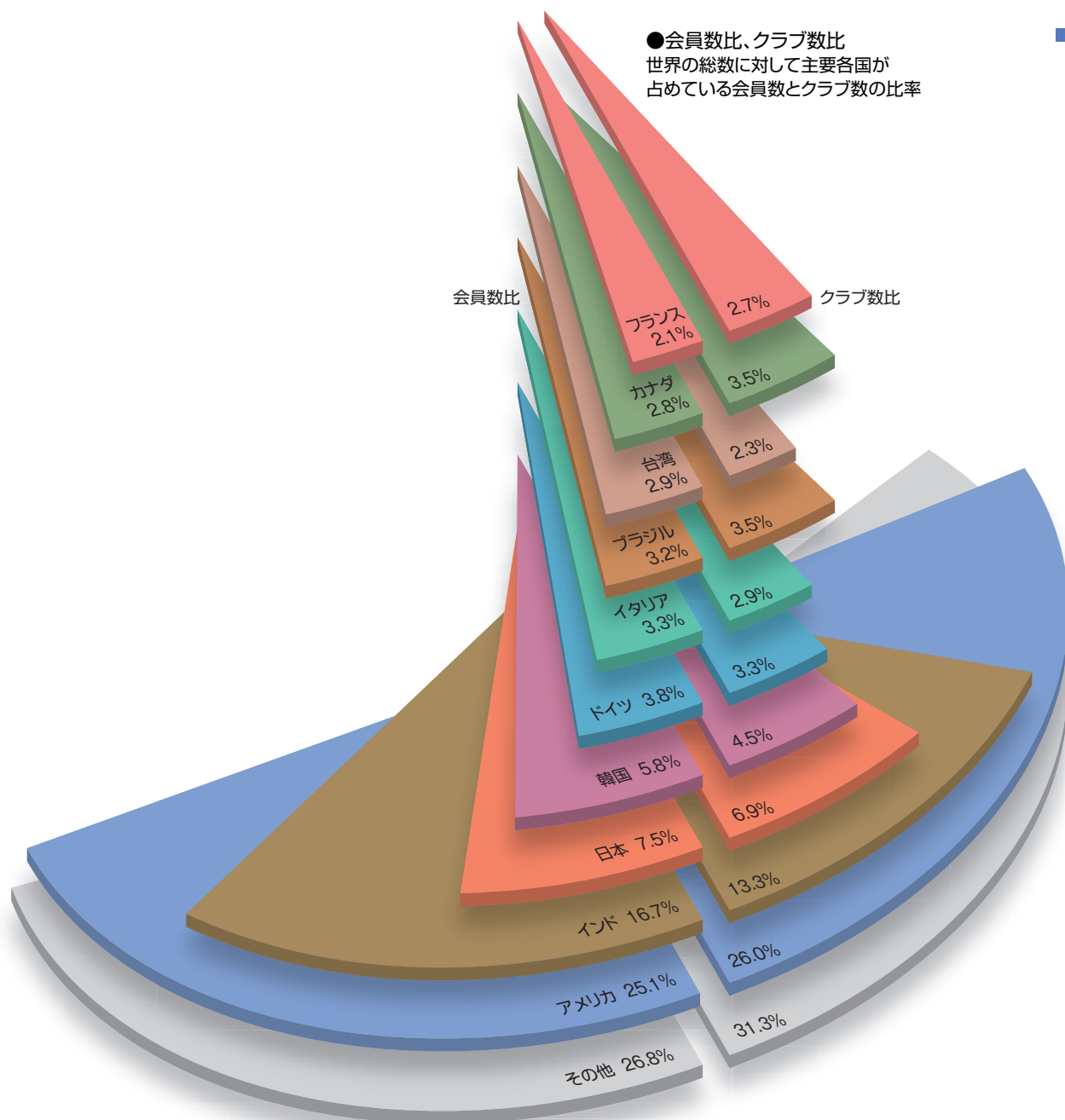
＊年度末クラブ数・会員数にはステータス・クオも含む

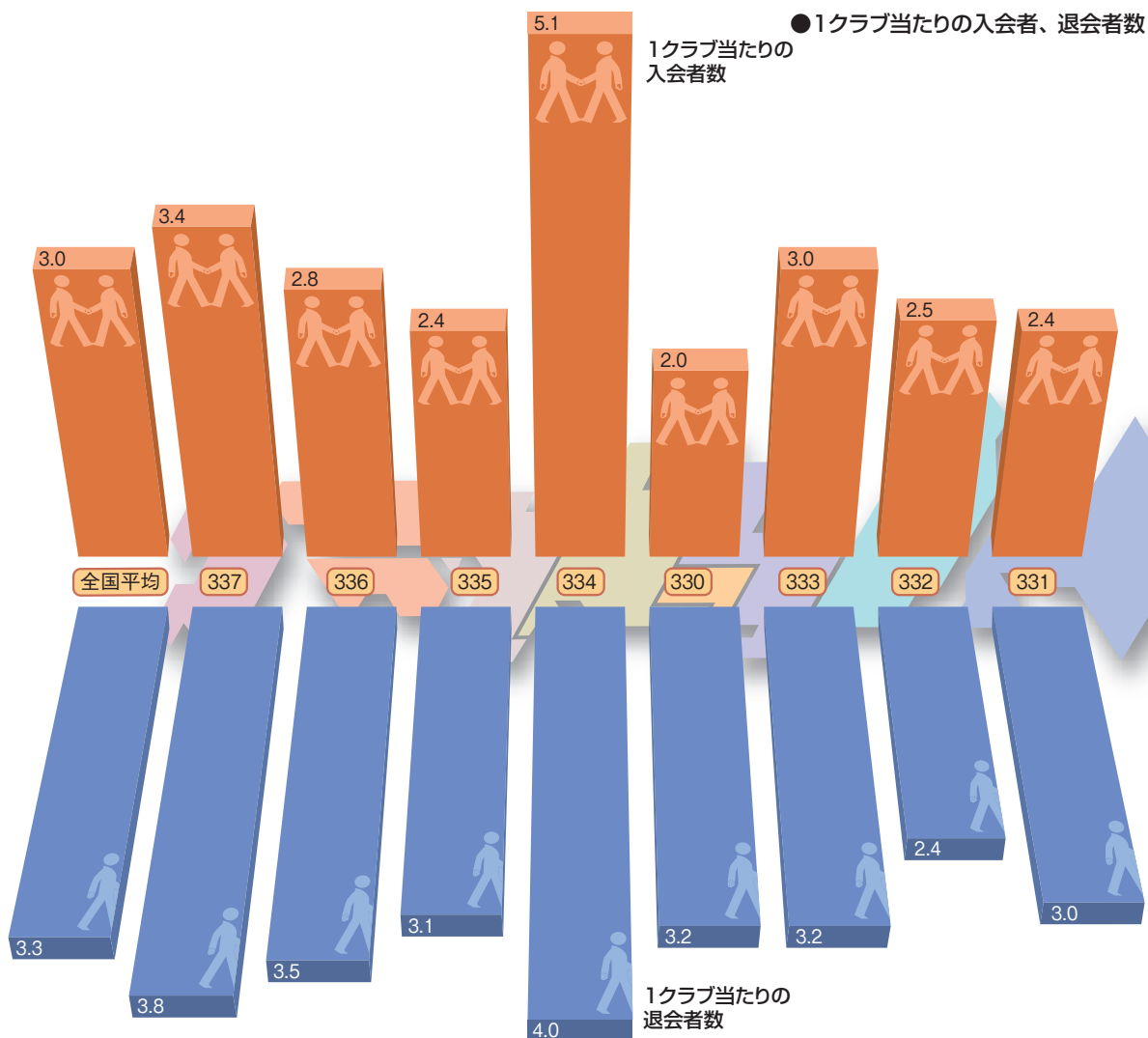
東洋・東南アジアの情勢

［2013年6月30現在］国際本部集計

国または地域	クラブ数	結成	解散	純増減	会員数	新入	退会	純増減	女性会員数	女性会員の割合(%)
グアム	17	1	2	-1	478	160	179	-19	287	60.0%
ミクロネシア	1	0	0	0	11	0	4	-4	8	72.7%
サイパン	4	1	0	1	88	48	10	38	48	54.5%
マーシャル諸島	1	0	0	0	18	8	7	1	10	55.6%
台湾	1,076	44	9	35	39,637	10,367	7,571	2,796	10,385	26.2%
フィリピン	378	44	40	4	12,515	3,197	3,011	186	5,647	45.1%
香港	66	0	0	0	1,559	299	260	39	379	24.3%
マカオ	2	0	0	0	45	1	0	1	13	28.9%
マレーシア	258	8	2	6	7,021	1,000	779	221	1,842	26.2%
シンガポール	77	5	1	4	2,006	478	280	198	721	35.9%
ブルネイ	2	0	0	0	36	3	5	-2	3	8.3%
タイ	271	7	14	-7	7,484	1,247	1,260	-13	2,678	35.8%
日本	3,194	21	53	-32	100,768	9,506	10,520	-1,014	12265	12.2%
韓国	2,078	35	75	-40	78,257	12,607	15,705	-3,098	14314	18.3%
中国	567	134	64	70	15,123	10,046	8,285	1,761	5479	36.2%
モンゴル	6	0	0	0	90	37	44	-7	43	47.8%
カンボジア	5	0	0	0	87	0	0	0	14	16.1%
ラオス	1	0	0	0	20	0	0	0	7	35.0%
合計	8,004	300	260	40	265,243	49,004	47,920	1,084	54,143	20.4%

＊年度末クラブ数・会員数にはステータス・クオも含む

主要10カ国の情勢

［2013年6月30日現在］国際本部集計

国または地域	クラブ数	結成	解散	純増減	会員数	新入	退会	純増減	女性会員数	女性会員の割合(%)
アメリカ	12,001	111	368	-257	337,762	37,053	46,413	-9,360	88,233	26.1%
インド	6,146	482	429	53	225,680	53,609	44,104	9,505	52,253	23.2%
日本	3,194	21	53	-32	100,768	9,506	10,520	-1,014	12,265	12.2%
韓国	2,078	35	75	-40	78,257	12,607	15,705	-3,098	14,314	18.3%
ドイツ	1,524	19	1	18	51,081	2,714	2,110	604	8,065	15.8%
イタリア	1,319	16	22	-6	44,209	3,470	5,273	-1,803	9,101	20.6%
ブラジル	1,600	57	29	28	43,474	7,058	5,762	1,296	17,023	39.2%
台湾	1,076	44	9	35	39,637	10,367	7,571	2,796	10,385	26.2%
カナダ	1,611	8	28	-20	37,575	4,150	4,669	-519	10,071	26.8%
フランス	1,234	18	18	0	27,724	2,501	2,947	-446	5,371	19.4%
その他	14,455	632	613	19	361,236	61,253	59,185	2,068	108,146	29.9%
合計	46,238	1,443	1,645	-202	1,347,403	204,288	204,259	29	335,227	24.9%

＊年度末クラブ数・会員数には、ステータス・クオも含む

複合地区・準地区情勢図

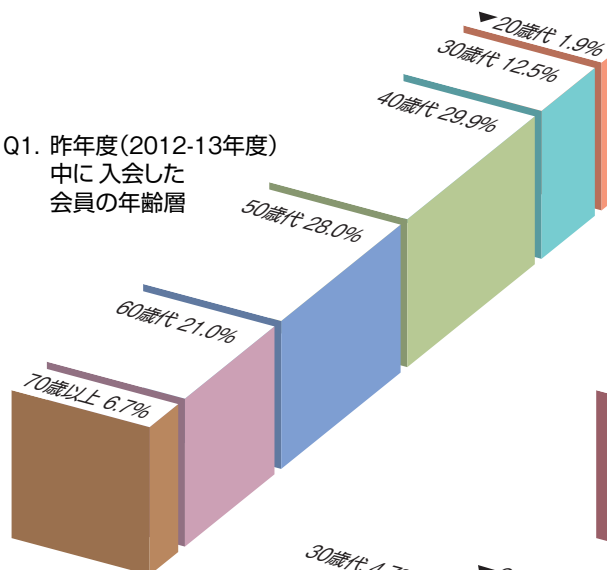
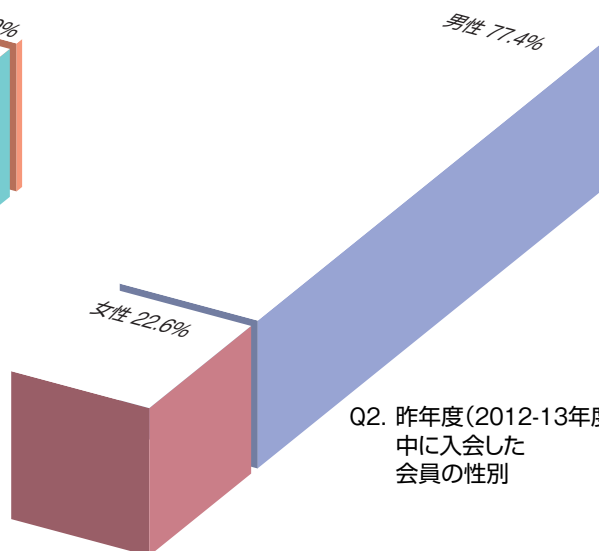
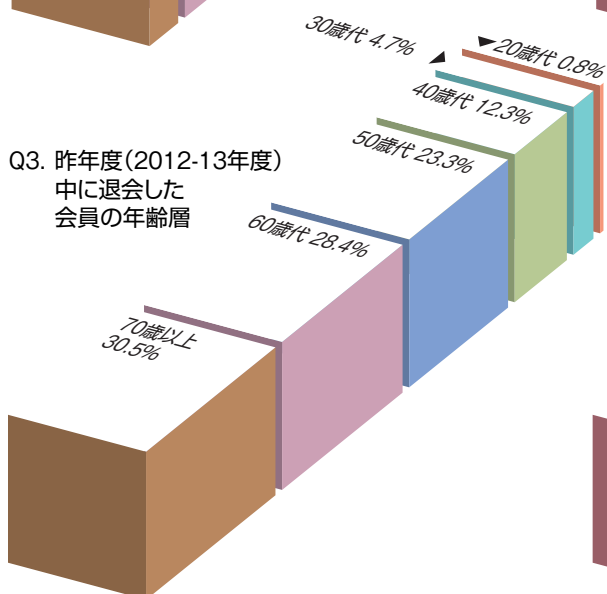
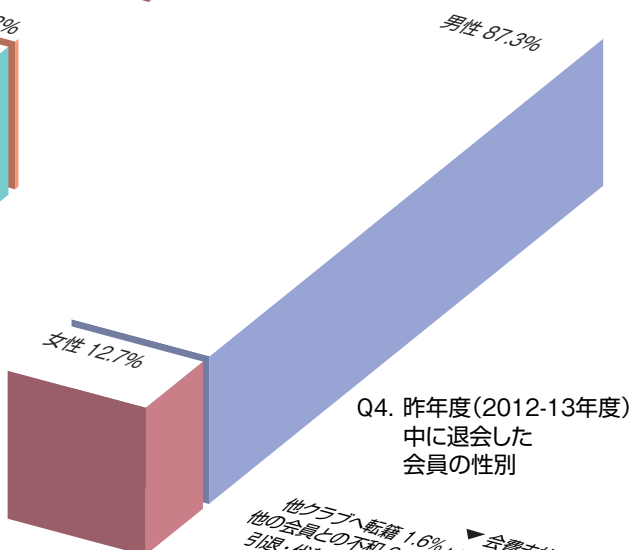
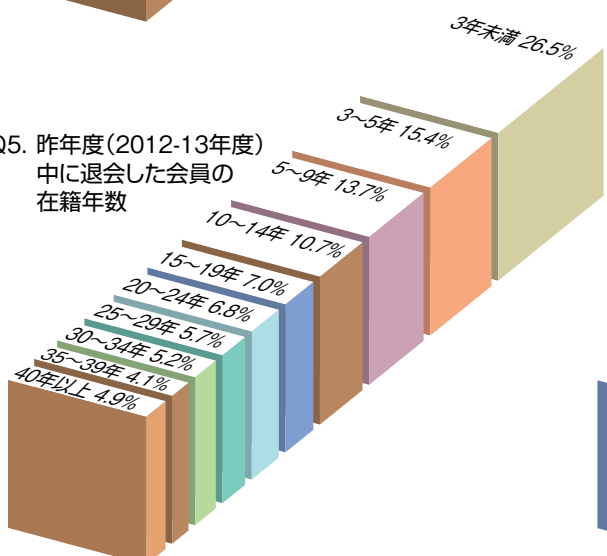
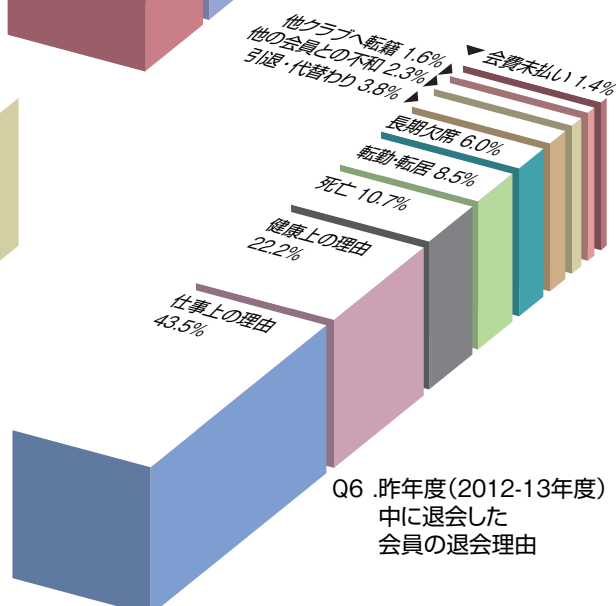
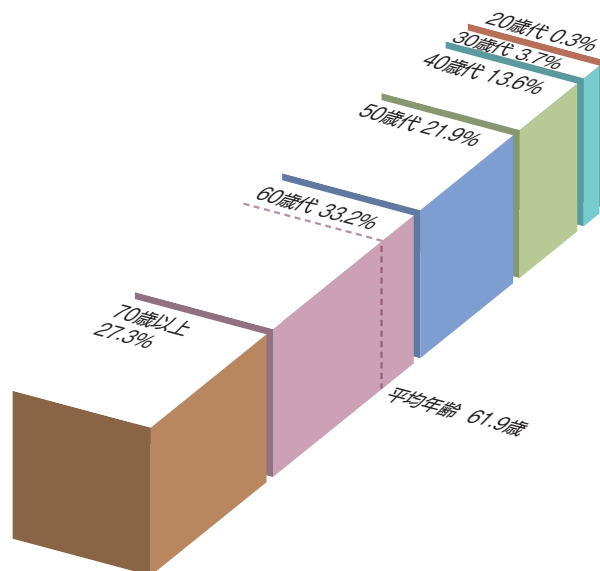
［2013年6月30日］国際本部集計

地区	クラブ数	クラブ純増減	会員数	新入	退会	会員純増減	平均会員数
330-A	202	-2	4,804	468	658	-190	23.8
330-B	171	-6	4,630	349	633	-284	27.1
330-C	93	-1	2,205	96	196	-100	23.7
小計	466	-9	11,639	913	1,487	-574	25.0
331-A	72	0	2,359	186	240	-54	32.8
331-B	88	-1	2,394	165	223	-58	27.2
331-C	53	0	1,758	164	172	-8	33.2
小計	213	-1	6,511	515	635	-120	30.6
332-A	65	0	1,850	248	136	112	28.5
332-B	54	-1	2,154	147	250	-103	39.9
332-C	74	-2	1,547	124	118	6	20.9
332-D	73	-3	1,938	141	147	-6	26.5
332-E	56	-2	1,772	100	138	-38	31.6
332-F	48	-3	1,328	161	115	46	27.7
小計	370	-11	10,589	921	904	17	28.6
333-A	76	-2	2,777	219	265	-46	36.5
333-B	53	-1	1,369	91	194	-103	25.8
333-C	142	3	3,490	399	348	51	24.6
333-D	52	-1	1,991	168	232	-64	38.3
333-E	80	3	2,829	329	246	83	35.4
小計	403	2	12,456	1,206	1,285	-79	30.9

地区	クラブ数	クラブ純増減	会員数	新入	退会	会員純増減	平均会員数
334-A	120	-2	4,990	365	562	-197	41.6
334-B	82	0	4,243	1,202	427	775	51.7
334-C	82	0	3,060	196	243	-47	37.3
334-D	99	3	3,817	344	326	18	38.6
334-E	52	0	1,931	125	177	-52	37.1
小計	435	1	18,041	2,232	1,735	497	41.5
335-A	90	-5	2,148	164	321	-157	23.9
335-B	181	1	5,380	473	534	-61	29.7
335-C	119	-2	3,832	322	366	-44	32.2
335-D	65	-1	1,865	123	176	-53	28.7
小計	455	-7	13,225	1,082	1,397	-315	29.1
336-A	149	-2	5,299	418	590	-172	35.6
336-B	96	0	3,065	305	287	18	31.9
336-C	101	0	3,325	237	313	-76	32.9
336-D	96	-3	3,066	279	344	-65	31.9
小計	442	-5	14,755	1,239	1,534	-295	33.4
337-A	116	0	4,443	579	487	92	38.3
337-B	72	-1	2,264	208	255	-47	31.4
337-C	84	0	2,999	261	350	-89	35.7
337-D	80	0	2,314	241	273	-32	28.9
337-E	58	-1	1,532	109	178	-69	26.4
小計	410	-2	13,552	1,398	1,543	-145	33.1
合計	3,194	-32	100,768	9,506	10,520	-1,014	31.5

クラブ・アンケート集計結果

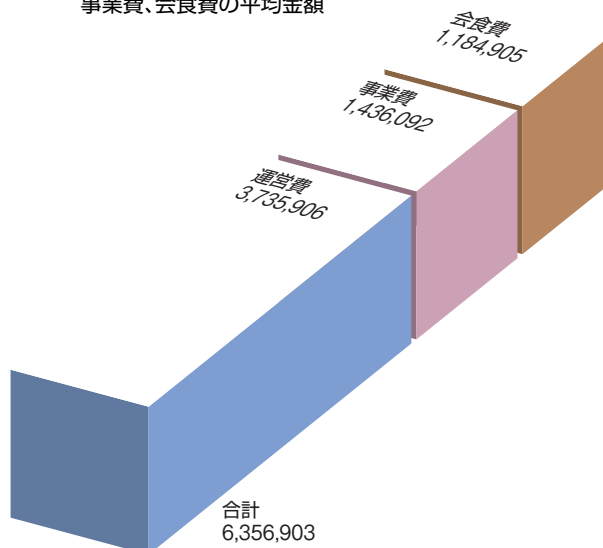
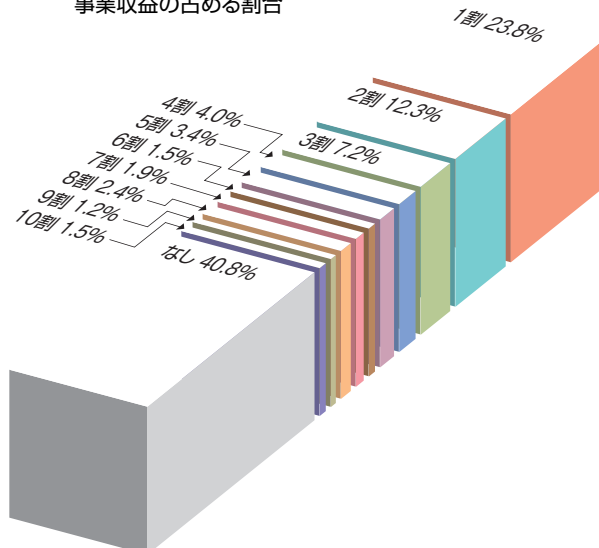
［2013年7月～8月］ライオン誌日本語版事務所集計

	330MD	331MD	332MD	333MD	334MD	335MD	336MD	337MD	合計
全国クラブ数 (2013.7.31)	466	213	370	403	435	454	442	408	3,191
回答件数	218	108	161	172	286	236	240	157	1,578
回答率	46.8%	50.7%	43.5%	42.7%	65.7%	52.0%	54.3%	38.5%	49.5%

統計Ⅱ 日本のライオンズ

Q7. 会員の年代別人数

Q8. クラブの入会金

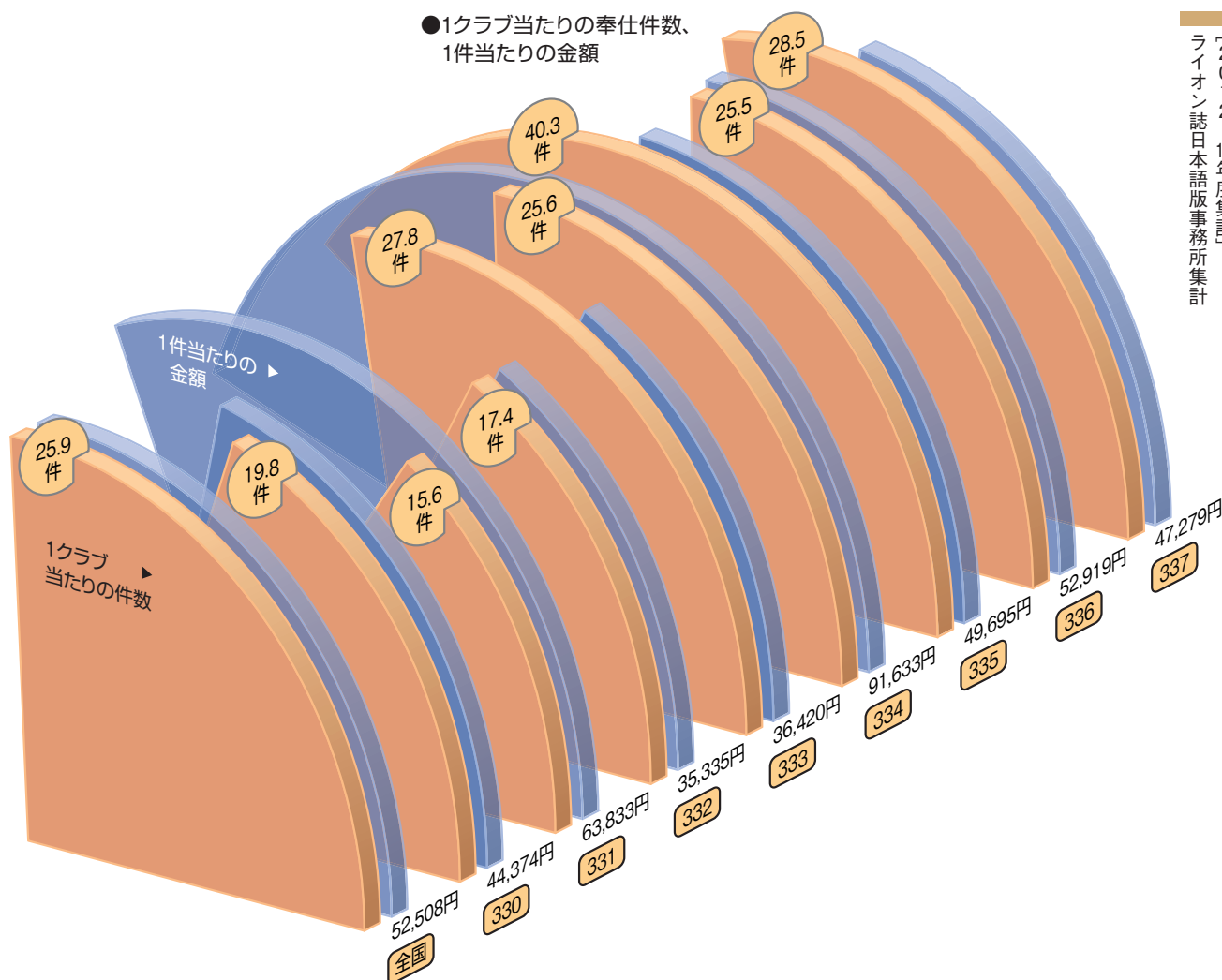
	330MD	331MD	332MD	333MD	334MD	335MD	336MD	337MD	合計
入会金なし	28.8%	13.0%	25.9%	24.4%	8.5%	9.9%	8.0%	11.5%	15.5%
1万円未満	4.2%	6.5%	5.1%	3.6%	2.1%	1.3%	5.0%	13.4%	4.6%
1万円以上3万円未満	24.2%	60.1%	49.4%	30.4%	31.8%	22.0%	43.4%	44.5%	35.9%
3万円以上6万円未満	39.5%	20.4%	19.0%	39.8%	49.2%	54.7%	42.4%	28.7%	39.6%
6万円以上9万円未満	1.4%	0.0%	0.6%	1.2%	4.2%	0.9%	0.8%	1.9%	1.6%
9万円以上12万円未満	1.9%	0.0%	0.0%	0.6%	4.2%	10.3%	0.4%	0.0%	2.7%
12万円以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.1%

Q9. クラブの年会費

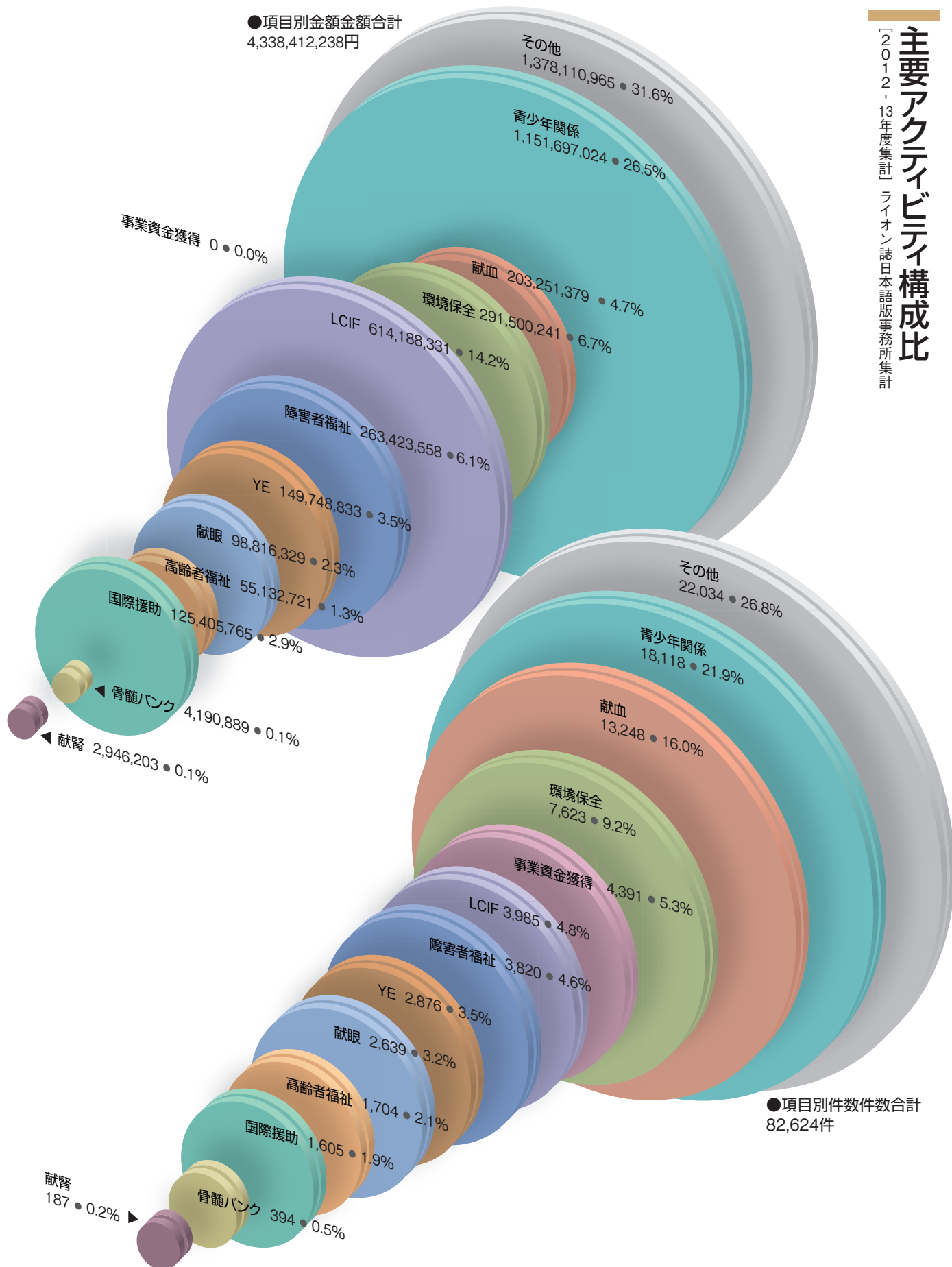
	330MD	331MD	332MD	333MD	334MD	335MD	336MD	337MD	合計
5万円未満	1.4%	1.9%	3.1%	2.4%	0.7%	1.3%	0.4%	2.5%	1.5%
5万円以上10万円未満	11.6%	25.0%	19.4%	11.8%	7.0%	4.7%	15.3%	11.5%	12.0%
10万円以上15万円未満	20.5%	36.0%	51.2%	56.4%	15.4%	17.2%	47.5%	49.7%	34.3%
15万円以上20万円未満	32.1%	24.1%	22.5%	24.1%	36.5%	19.8%	26.7%	35.0%	28.2%
20万円以上25万円未満	26.5%	10.2%	3.8%	4.7%	34.4%	22.9%	9.7%	1.3%	16.5%
25万円以上30万円未満	7.4%	2.8%	0.0%	0.6%	5.3%	20.3%	0.4%	0.0%	5.3%
30万円以上	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	13.8%	0.0%	0.0%	2.2%

Q10. 昨年度（2012-13年度）支出における運営費、事業費、会食費の平均金額

Q11. 昨年度（2012-13年度）の事業費の中で、事業収益の占める割合

アクティビティ地区別構成比

［2012・13年度集計］
ライオン誌日本語版事務所集計

●1クラブ当たりの奉仕件数、1件当たりの金額

複合地区	準地区	件数	1クラブ当たり件数	金額合計	1件当たり金額	資金獲得金額
330	330-A	3,353	16.6	175,885,301	52,456	40,512,357
	330-B	3,793	22.2	163,786,077	43,181	38,870,232
	330-C	2,073	22.3	69,412,837	33,484	32,663,908
小計		9,219	19.8	409,084,215	44,374	112,046,497
331	331-A	1,234	17.1	103,368,055	83,767	9,968,322
	331-B	1,006	11.4	65,775,417	65,383	5,022,045
	331-C	1,087	20.5	43,227,827	39,768	2,826,027
小計		3,327	15.6	212,371,299	63,833	17,816,394
332	332-A	1,126	17.3	36,866,624	32,741	6,002,733
	332-B	978	18.1	40,481,864	41,392	2,388,688
	332-C	827	11.2	47,190,342	57,062	3,209,591
	332-D	1,443	19.8	49,830,778	34,533	2,236,616
	332-E	1,333	23.8	38,811,735	29,116	4,258,550
	332-F	745	15.5	14,798,885	19,864	2,269,052
小計		6,452	17.4	227,980,228	35,335	20,365,230
333	333-A	2,130	28.0	68,514,837	32,167	5,312,292
	333-B	1,016	19.2	43,709,443	43,021	11,727,410
	333-C	3,806	26.8	135,846,361	35,693	30,102,164
	333-D	1,575	30.3	64,326,215	40,842	6,429,300
	333-E	2,663	33.3	95,142,135	35,727	13,490,106
小計		11,190	27.8	407,538,991	36,420	67,061,272
334	334-A	2,868	23.9	416,818,469	145,334	7,055,954
	334-B	2,557	31.2	220,237,576	86,131	4,250,438
	334-C	1,686	20.6	115,972,736	68,786	4,468,300
	334-D	2,619	26.5	147,651,296	56,377	1,998,524
	334-E	1,417	27.3	120,748,105	85,214	8,149,225
小計		11,147	25.6	1,021,428,182	91,633	25,922,441
335	335-A	3,186	35.4	163,393,665	51,285	60,696,420
	335-B	7,413	41.0	365,642,582	49,325	18,412,273
	335-C	6,061	50.9	300,893,681	49,644	7,376,642
	335-D	1,685	25.9	81,730,574	48,505	2,879,552
小計		18,345	40.3	911,660,502	49,695	89,364,887
336	336-A	4,357	29.2	193,507,825	44,413	21,882,677
	336-B	1,590	16.6	90,741,708	57,070	6,699,698
	336-C	2,804	27.8	192,933,554	68,807	14,696,947
	336-D	2,522	26.3	119,375,120	47,334	12,766,905
小計		11,273	25.5	596,558,207	52,919	56,046,227
337	337-A	4,695	40.5	235,930,753	50,251	65,638,804
	337-B	2,179	30.3	74,262,820	34,081	22,744,304
	337-C	1,845	22.0	95,124,087	51,558	18,824,710
	337-D	1,662	20.8	84,793,921	51,019	3,719,051
	337-E	1,290	22.2	61,679,033	47,813	5,421,291
小計		11,671	28.5	551,790,614	47,279	116,348,160
合計		82,624	25.9	4,338,412,238	52,508	504,971,108

主要アクティビティ構成比

［2012・13年度集計］ライオン誌日本語版事務所集計

ライオンズクエスト・フォーラム 全国大会 in 富山

ライフスキル教育と、プログラムの普及活動について意見を交換する初の全国大会

2013年8月2～3日、日本のライオンズクエスト史上初めてとなる全国大会が、富山市で開催された。プログラムの普及活動に取り組むライオンズ・メンバーを始め、教職員や保護者ら330人が全国31都府県から集結。ライオンズクエスト・プログラムに携わる人々が、それぞれの立場でこれまでの活動報告や今後の課題などについて意見を交換した。

文／砂山幹博　写真／田中勝明

課題を出し合い、共に考える初めての試み

ライオンズクエスト・プログラムが日本に導入されて、15年が経った。330複合地区におけるパイロット事業に始まり、青少年育成支援フォーラム（JIYD）のサポートの下、プログラムの普及活動は日本中に伝播。現在、年間約100回のワークショップ（WS）が開催され、2500人の教育関係者が受講している。

そんな中、2007年に富山市立大泉中学校にプログラムを導入し、以後7年にわたって同校のライフスキル教育をサポートし続けている富山昭和ライオンズクラブ（長江正憲会長／48人）が、ライオンズクエストの更なる普及のために立ち上がった。それが、プログラムの関係者が一堂に会する全国大会の開催だ。

「現在は情報共有が出来ていないが、全国各地で行われているプログラム導入の好事例や、クラブや教育関係者が抱える課題を共有し、共に考えるきっかけにしたい」との思いから立案。約1年の準備を経て、結成30

Lions Quest

周年記念事業として開催した。

参加者の約9割はライオンズのメンバーだったが、ライオンズクエストへの関わり方はさまざま。既に導入校をサポートしているクラブの会員もいれば、導入を検討しているクラブの役員もいる。また、今年度初めてライオンズクエスト委員に選ばれ、勉強のため参加したというメンバーも目立った。

開会式終了後は、早速公開授業が行われた。夏休み中にもかかわらず授業を披露してくれたのは、全学年でライオンズクエストを導入している大泉中学校と、09年の導入後、1、2年生に対して年に3回の学校行事に合わせてライフスキル教育を行っている片山学園中学校の2校。

大泉中学校の2年生は仲間からの好ましくない誘いに対し、穏やかだがしっかりと自己主張して誘いを断る学習を、3年生は目標に向かって進んでいる時に誰しもが経験する挫折への対処方法を学ぶ授業を実施。また、片山学園中学校の1、2年生は、スムーズな学園生活が送れるように同校が取り入れているライフスキルを使った「手紙のやりとり」を披露してくれた。

どの教室も、興味深そうに授業を見守る参加者であふれた。立ち見の

人垣の中には、このフォーラムのことを聞きつけて急きょ来日した韓国のキム・テヨン国際理事と夫人の姿もあった。キム国際理事は公開授業終了後、授業を担当した教諭に直接質問するなど、プログラムをより深く理解しようとする姿が印象的だった。帰国後、ここで得た情報を韓国の普及活動に役立てるのだという。

教師には、生徒と共に学ぶ姿勢が求められる

公開授業の後は、埼玉県川口市立芝東中学校の教諭で、3年前からライオンズクエスト・プログラム認定講師として活動している柴咲子先生の基調講演が行われた。柴先生は、01年に同校がライオンズクエストのパイロット校となったのをきっかけに、ライフスキル教育の研究事業や教材開発に携わるなど、12年間にわたってこのプログラムを、教育現場で実践してきた。

「今、そしてこれからのライオンズクエスト」と題した今回の講演では、ライフスキルの効果や具体的な手法、プログラム導入時に教師が心掛けておくべきことなど、教育現場にいるからこそ気付くことの出来た貴重な体験談を話してくれた。

ライフスキルの授業には「総合的な学習の時間」を使うことが多いが、学習指導要領の変更により、昨年から年間で20時間削減され、以前に比べ時間の確保が難しくなった。今後は、道徳や特別活動の時間も横断的に活用していくべきだと柴先生は提言。また、プログラム導入校における教師の心構えについても言及した。

「導入が決まったら、教員全員が一丸となってその効果を信じて実践することが大事。初めてのことには苦労がつきもので、自分の教科以外のことに自信がないのは当たり前。でも一度授業をやってみると、次回からは生徒の反応にも余裕を持って対応が出来る。ライフスキルの授業が出来ること、その手法を使えることは、何より教師の糧になる。『生徒に教える』というより『生徒と共に学ぶ』姿勢で授業に臨んでほしい」

同じ立場にある教師へのメッセージが多い内容であったが、学校側の考えや課題を代弁しているようで、学校への導入を検討しているクラブには大いに参考になったのではないだろうか。

普及の障害になっているライオンズの理解不足

基調講演に続き、さまざまな立場でライオンズクエストに携わる5人のパネリストを迎え、パネル・ディスカッションが行われた。テーマは「思春期のライフスキル教育」。

コーディネーターは三重県津市立修成小学校の教諭で、ライオンズクエスト・プログラム認定講師の寺本之人氏が務めた。寺本氏は初めに「ライオンズクエストのどういう部分が良いのか」という質問を投げ掛けた。

保護者代表として登壇した大泉中学校元PTA会長の島先孝志氏は、自身のお子さんの例を通じてその良さを語った。

「富山市が学校選択制を採用したことで、市内のどの中学校にも通えることになった時、大泉中学校で初めてライフスキルの授業を拝見しました。子どもたちにとっても学校にとっても、そして先生にとっても非常に良いプログラムだと思い、そのことを娘に話すと彼女は大泉中への進学を選択。すると小学校の頃より表情が明るくなり、毎日が楽しそうでした。全てがライフスキル教育のおかげではないにせよ、一つの大きな要因だったと思っています」

福井県・敦賀みなとライオンズクラブの前会長で、ライオンズクエスト説明員のライオン清水直喜は、プログラムの良さを次のように分析した。

「ライフスキルの授業ではよく、子どもたちの目が輝くなどと言われますが、なぜそうなるのか。私たち大人も興味のあることを話している時は表情がイキイキとしているもの。ライフスキルで扱う内容は、子どもたちにとっても非常に興味があるものなのだと思います」

続いてコーディネーターは、「学校導入に際して、どのようなアプローチを行ったのか」、富山昭和ライオンズクラブの長江会長に質問をした。

富山昭和ライオンズクラブによる大泉中学校へのプログラム導入の話を整理すると、今から8年前に当時の会長が強いリーダーシップを発揮して「ライオンズクエストを広めよう」と、クラブ内の意思を統一。ところがプログラムのことを知れば知るほど、最低でも3年は継続するのでないと、学校へのアプローチは出来ないと感じるようになった。そこでネックとなるのが、ライオンズの単年度制だった。そのため、ライオンズクエストをクラブ事業として3年間継続することについてクラブで承認を受け、その上で市内13の中学校へ出掛け、PRを行った。

「一つの単元を実際に行う体験会に参加してほしいと各校にお願いしたところ、大泉中学校の当時の校長を含む十数人に参加して頂けました。その後、各校に導入のお願いをして回りましたが、反応はさまざま。興味を示した大泉中学校の校長とは、最低3年間継続しないと意味がないということを確かめ合った後、JIYDの協力を得てカリキュラム編成や校内型WSの開催について話を詰めていきました」（長江会長）

学校選択制による子ども同士の関係性づくりを危惧していた当時の大泉中学校に対し、富山昭和ライオンズクラブは渡りに船とばかりにプログラムを紹介した。それから7年が経つが、同校とクラブは良好な関係を保っていると、パネリストの一人、大泉中学校の酒井俊輔教諭は話す。

「校長以下、教員スタッフが15人の小所帯ということもあり、ライフスキルの担当者を設けずスタッフ全員で取り組んできました。これが7年間も継続出来た鍵じゃないかと思っ

川口市立芝東中学校の柴咲子先生による基調講演

5人のパネリストを迎えてのパネルディスカッション

Lions Quest

ています。担当者不在はデメリットに見えますが、特定の担当者の異動により熱が冷めてしまうことを未然に防ぐ仕組みと言えるかもしれません」（酒井氏）

クラブと学校のそれぞれの事情を交えて導入当時と今を振り返ってもらったが、こうした例を踏まえて、学校への導入を考えているクラブは今後どうすべきか。20年の教師経験があり、ライオンズクエスト説明員でもある高知とさみずきライオンズクラブのライオン北泰子はこう話す。

「今の学校は、子どもたちのためにどのようなプログラムを取り入れたらいいかを研究し、模索しています。つまり、学校は良いプログラムを待っています。だからライオンズクエストというすばらしいものがあることを、ライオンズが自分の声で紹介しないといけないと思います。現在、普及の障害になっているのは、ライオンズクエストのことをちゃんと理解して伝えられるメンバーが少ないということ。ライオンズの声は、まだまだ小さいと思います」

繰り返し学ぶことで効果が上がるプログラム

2日目は四つの分科会に分かれ、より深い内容について議論が交わされた。

第1分科会は、学校教育関係者向けの部会。前日の公開授業の感想について話し合った他、ライフスキル教育の課題というよりは、その効果を確かめ合う場となった。実際に導入している学校では、人間関係づくりのプログラムを入学直後に集中的に行うという報告が数例あった。アドバイザーを務めた柴先生からは、ライオンズクエストは体系的にしっかり作られたプログラムであるので、繰り返し学ぶことで効果が上がるという話や、個人でも学年でも出来るところから始めてほしいというアドバイスがあった。

第2分科会はライフスキル入門部会。これからライオンズクエストを始める、もしくは始めて間もないクラブを対象としたものだ。長江会長とＪＩＹＤの担当者が、参加者の質疑に答える形で進行した。

7月に地区の担当委員長になったばかりのメンバーからは、頻繁に先生が異動する公立校ではなく、異動がほとんどない私立校へアプローチをした方が効率的ではないか、という提案があったが、先生の異動は普及活動において必ずしも悪いことではないという意見もあった。

「ＷＳを受けた先生の異動を、我々の奉仕の種として地域に散らばってくれていると考えてみてはどうでしょう。異動先でいつの日かライフスキルをやってくれる日が来るかもし

Lions Quest

れません。私立校への導入も良いのですが、公立校の方が長いスパンで考えるとダイナミックな動きに展開する可能性を秘めていると思います」（長江会長）

実際、面白い兆しもある。ライオンズクエスト導入校の校長が異動となり、その新しい赴任先にWSを受講した経験のある先生が入って来るという現象が起きているのだ。校長はプログラムのすばらしさを知っているだけに、あとは背中を押すだけで導入が実現する可能性が高い。富山市内には現在、WS経験のある先生、校長が400人近くいるので、新しい赴任先でのこうした出会いが普及を加速させるのではと期待しているという。そのために富山昭和ライオンズクラブでは、各先生の赴任先を後追いして把握するという活動も行っている。

また、クラブ一丸となって取り組みたいが、なかなかメンバーに活動を理解してもらえないという悩みに対しては、富山昭和ライオンズクラブのやり方が披露された。

「クラブのメンバーにお願いして、自分の会社の社員の親子、親戚親子などを1組推薦してもらい、推薦者であるメンバーと共に体験会を見学してもらいました。これをクラブ事

業として年に1度行い、それを3年間継続したことで、ライオンズクエストに対する理解が深まり、クラブ内のまとまりも出てきました」

第2分科会でとりわけ多かったのが、「ライオンズクエストのことがよく分からない」と「何をどうすればいいのか」という意見。こうした疑問に対して、JIYDの担当者は次のような回答を示した。

「つまるところライオンズクエストの活動とは『すばらしいプログラムがありますよ』と、学校教育関係者にご案内すること。自分たちが汗を流す労力奉仕とは随分趣が異なりますから、取っ付きにくいのかもしれません」

このコメントを受けたL長江の経験談は、これから普及活動を始めようとするメンバーに対するエールとも取れる一言であった。

「ライオンズクエストのことを知らないと、この事業に着手出来ないというのは誤解だと思います。走りながら勉強あるのみ。学校へ出向いて、JIYDに聞いて、キャビネットと交渉して、と動いてみないと分からないことがたくさんありました。まずは走り出してみること。知識は後から付いてきますし、きっとうまくいくはずです」

普及活動を通して感じる課題や問題点とは？

「実践を通して考えること」をテーマに掲げた第3分科会の対象は、活動実績のあるクラブがメーン。普及活動を行う上での課題や、現状の問題点などについてマイクの取り合いが起きるほど熱い議論が交わされた。

最初に「認定講師は少なすぎるのでは？」という質問があった。現在認定講師は9人だが、この夏だけでも60回近いWSが開催されており、実際調整も難しくなっている。JIYDの回答は以下の通りだ。

「講師が増えない理由の一つはLCIFの選考基準。学校の先生に学んでもらうための専門知識が必要なので条件が厳しく設定されています。今後講師を増やしていく考えではありますが、一人ひとりの講師にそれなりの回数のWSをこなしてもらってレベルを維持したいという狙いもあります。増やし過ぎはWSの質の低下を招く恐れがあるので慎重に考えていきたいと思います」

認定講師の役割を補うために説明

四つに分かれた分科会は、それぞれ活気のある内容となった

Lions Quest

員制度が出来たが、こちらは現在58人おり、1年に5人ずつのペースで増えている。が、問題もある。

「ライオンズの役職に就いている時は一生懸命活動するが、それが終わると辞めてしまう方もいる。この辺は今後の検討課題」と、コーディネーターを務めた富山昭和ライオンズクラブのライオン石動勇は話す。一方、説明員の増員については反対意見も出た。

「ライオンズ・メンバーの説明員が同じメンバーに説明していては非効率。ガバナーなり、ゾーン／リジョン・チェアパーソン、クラブ会長などトップから理解を促進させるよう、組織を利用した仕組みを作るべき」

あるライオンからは、「ライオンズクエストの最終的な目的、到達点がはっきりしていないのが大きな問題」という厳しい意見も。これに対しJIYDは「まだ普及の段階なので、最終目的までは設定出来ていない」と回答したが、目的の設定については、332-C地区（宮城県）からヒントとなりそうな発言があった。

「教育というのはそれぞれの地域で事情が異なるもの。だから332-C地区では自分たちのエリアに合ったやり方で普及させるべく、県の教育委員会にライオンズクエストを認めてもらえるまで普及活動を続けることを目標にしました」

地域の教育方針と足並みをそろえた普及活動は、確かに地域に根ざしたライオンズの活動方針と重なる。

他にも「WSは2日間の拘束が原則だが、それでは先生が集まりにくいので、各国の実情に合わせて原則を変更出来るようLCIFに話してほしい」「全体の予算額を知らないクラブ・メンバーが圧倒的に多く、事業にどのくらいのお金が掛かっているかが見えにくい」といった意見が出た。費用に関しては、地区の取り組み方によっても異なる他、クラブが単独で実践している場合もあり、それぞれで何にどれくらいお金が掛かるのかが分かる資料をJIYDが作成することになった。

また導入事例としては335-C地区から、教員の卵たちが勉学に励む京都教育大学のケースが紹介された。授業でWSを受講すると単位が取得出来、更に今後はWS受講が必須科目となるところまで話が進んでいる。また、337-A地区からは、単一クラブで福岡市の聴覚障害者支援学校にライオンズクエストを導入した例の報告があった。心を閉ざしがちな障害を持つ子どもに対しても、プログラムはすばらしい成果を挙げているという。

小学生版の完成で期待される裾野の広がり

第4分科会は、普及の最前線に立っている説明員を対象に開催された。最初に、説明員の自己紹介を兼ねたライオンズクエストらしい活動が行われた。活動は「ライオンズクエストのすばらしいところ」を画用紙に各自記入し、似た回答をした者同士がペアとなって互いに自己紹介と記入内容を紹介し合うというもの。これによって、会場には和気あいあいとした雰囲気が生まれていた。後半には、この7月に出来たばかりのライオンズクエスト小学校版プログラムの概要説明があった。プログラムの中から小学校3年生単元3授業1「意志決定」の模擬授業が、説明員全員参加で行われた。小学生版の対象は小学校1～5年生で、思春期版より2単元少ない5単元を学習するもの。薬物乱用に関すること、仲間作り、意志決定など思春期版でもおなじみの内容だが、子どもの発達段階に合わせているため、思春期版とは表現の面が若干異なっている。普及活動においては、小学生版教材をいかに知ってもらうかというアプローチではなく、ライオンズクエストをPRする中で対象に合わせて思春期版と小学生版の適した方を紹介していくことになりそうだ。

最後に、四つの分科会で話された内容の報告があり、JIYDによる講評の後、閉会となった。

小学生版という「新製品」を得たライオンズクエスト・プログラム。10年には35準地区あるうちの27準地区で、LCIF四大交付金を使った普及活動が実施され、全国各地で多くのWSが行われた。その一方、実践校はそれほど増えておらず、そういう意味で全国規模で情報交換が出来る今回のような機会は、今後も必要になってくるだろう。

「我が地区ではこんな風にWSを開催した」「こんな戦略を立てて普及活動をしている」など、それぞれの地区、クラブ、そして学校や教育関係者、保護者に至るまでさまざまなやり方、思いがあるはずだ。そうした情報を持ち寄り、交流して、学び合えば、お互いに選択肢が増える。選択肢が増えると、良い行動を促す大きな力となる。そしてその大きな力は、普及活動の更なる原動力となるに違いない。

被災地のライオンズは今

宮城県・南三陸志津川ライオンズクラブ

イースター島から来たモアイ像とライオンたちの笑顔を見に行こう

震災翌月に行われた第1回から数えて28回目となる南三陸町の「福興市」（山内正文実行委員長・南三陸志津川ライオンズクラブ）」が、8月24日、南三陸さんさん商店街で開催された。福興市は地元商店街と町、そして多くの町民が手を携え、町外からもさまざまな応援を受けながら、毎月最終日曜日に実施してきた。回を重ねるごとに知名度が上がり、今では南三陸町の復興のシンボルとして定着している。

通常月は午前中から夕方までの開催だが、今回は「かがり火福興市」と題して、午後1時から夜の8時半まで実施。震災前に南三陸の夏の風物詩として行われていた「かがり火まつり」と福興市を併せて行った。夜になってかがり火がともされると、地面に並べられたキャンドルと共に、会場は幻想的な雰囲気に包まれた。

今回は更に、先月の福興市の際に予定されながら悪天候で順延となった「南三陸夢メッセージ花火」も開催。多くの町民や観光客が見上げる夜空に、2300発の花火が打ち上げられ、震災前に行われていた志津川湾夏祭りを思い起こさせる一夜となった。

「南三陸夢メッセージ花火」は震災後に世界中から寄せられた多くの支援に対する「ありがとう」の心を胸に刻み、未来に向かって「夢」を持ち続けるため、南三陸の夜空に大輪の咲かせようと企画された。インターネットを通じて花火打ち上げへの協賛を募集したところ、町内外から多くの善意が寄せられた。その中には、南三陸への支援アクティビティなどでつながりの出来た、東京秋川、東京ヒルズ、埼玉県・戸田、宮城県・志波姫、千葉県・市川、千葉グリーン、千葉ネオの各ライオンズクラブの名もあった。

イースター島からやって来たモアイ像

福興市の会場となった南三陸さんさん商店街の一角に、高さ3メートルのモアイ像が設置されている。チリのイースター島から寄贈されたもので、5月25日にイースター島代表や駐日チリ大使も参列して行われた贈呈式の席上、佐藤仁町長（南三陸志津川ライオンズクラブ）は「モアイは後世に震災の記憶を伝承する象徴。多くの善意が詰まったこの像を、町民みんなで大切にしていきたい」と語った。

南三陸町は1960年、チリ地震津波により大きな被害を受けた。同年、防災と友好の証しとしてチリからモアイ像が贈られ、町のシンボルとして町民に愛されてきた。が、東日本大震災で像の頭部が流出。昨年3月、南三陸町を訪れたチリのセバスティアン・ピニェラ大統領が新たな像の寄贈を約束し、その後、イースター島の石工が制作を続けて、今年になって日本にやって来た。イースター島

南三陸を明るく元気にする復興だこオクトパス君も福興市を盛り上げた

さんさん商店街の前に作られたBRT（バス高速輸送システム）志津川駅

東日本大震災

「今度は居酒屋だよ!!　日の出荘」のランチメニューの一つ、アジフライ定食は分厚いアジフライが2枚付いて680円

以外で本物のモアイを見られるのは世界でただ1カ所、この南三陸さんさん商店街だけだ。

その宣伝効果は絶大で、一時減少していた観光客が、モアイの登場後は増加に転じている。現在、さんさん商店街の客層は町民2割、観光客8割だという。

週末ともなれば、あちこちから観光バスが訪れ、必ずさんさん商店街に立ち寄る。各店舗や観光協会では、さまざまなモアイ・グッズを作り、それがまた人気を呼んで相乗効果を生んでいる。

南三陸さんさん商店街のライオンたち

南三陸さんさん商店街には、ライオンズ・メンバーの店舗も多い。まずは、震災当時ゾーン・チェアパーソンを務めていたライオン阿部英世の「デイリー衣料　アベロク」。その斜め前には、講談社出版文化賞を受賞した写真集『南三陸から』で知られるライオン佐藤信一の「佐良スタジオ」がある。この2軒の奥には、前クラブ会長のライオン阿部雄一が「雄新堂」を構え、ケーキやパンを作っている。また福興市の実行委員長（ライオン山内正文：「ヤマウチ」＝酒、魚、惣菜）、副実行委員長（ライオン及川善祐：「及善蒲鉾店」＝かまぼこ、海産物）、事務局長（ライオン三浦洋昭：「マルセン食品」＝鮮魚、かまぼこ）の店もある。

南三陸では他にも、震災前は民宿を経営していたライオン星喜美男が居酒屋として営業を再開した日の出荘や、ライオン阿部隆二郎が副社長を務める南三陸ホテル観洋などがあり、あちこちでライオンたちの笑顔に会うことが出来る。南三陸へのアクセスとしては、昨年12月に運行を開始したJR気仙沼線振替バス（BRT）があり、志津川駅はさんさん商店街の真ん前に設置されている。BRTは、仙台〜小牛田〜柳津とJRを乗り継ぎ柳津から乗車するか、一ノ関〜気仙沼と乗り継ぎ気仙沼から乗ることになる。また、仙台から1日4往復の高速バスや、くりこま高原駅からレンタカーを借りる選択肢もある。

支援クラブとの絆を大切にする

今回の取材では震災後4代の会長（10・11年度ライオン小坂克己、12・13年度ライオン阿部雄一、13・14年度ライオン伊藤和長）にお会いした。話を伺うと、それぞれ、南三陸に支援に入った全国のクラブや会員との交流が今も続いているという。また、支援活動で南三陸を訪問したことのある会員が、新年度のクラブ役員に就任することになり、再び南三陸のためのアクティビティを計画したいと言ってくれるケースもあるそうだ。昨年4月21日に開催された同クラブの結成50周年記念例会には、復興支援活動でつながりが出来た全国14地区24クラブの会員が参加したが、今回、皆さんの話を聞いて、改めてライオンズの絆の強さを感じさせられた。（取材／鈴木秀晃）

チリのイースター島から寄贈されたモアイ像

国際理事だより

■国際理事
武久一郎
（徳島城山）

夢に向かって心一つに

第96回ハンブルク国際大会と、その前後に行われる国際理事会が終わって早1カ月余が経ちました。特筆すべきことは、山田實紘国際第2副会長と、清水英徳国際理事の就任であります。2年後のハワイ国際大会で、いよいよ日本から国際会長が誕生する日を心から待ち遠しく思います。

今回のハンブルク滞在は15日間に及び、また、日本の念願だった国際第2副会長の選出もあり、充実した疲労感を味わいました。大会における山田国際第2副会長候補者支援のパフォーマンスは盛大で活気に満ち、日本のエネルギーを感じさせるものでした。インターナショナル・パレードでは出番までの待ち時間がかなり長くなるなど、多少予定通りにはいかない点もありましたが、すばらしい思い出を残して無事に大会を終了することが出来ました。

私は国際理事会の会則及び付則委員会とLCIF執行委員会で副委員長を務めることになり、清水国際理事も同じ委員会の所属となりました。理事会会期中には来年、再来年の国際第2副会長候補者の推薦がなされ、第100回国際大会に向けて着々と準備が行われていることを痛感致しました。

次回第97回国際大会はカナダ・トロントで、第98回国際大会はアメリカ・ハワイで開催され、そこで待ちに待った日本からの国際会長が誕生するわけです。そして日本・福岡での第99回国際大会は山田国際会長が主宰され、その実績報告が華々しく行われます。この時までには、アメリカ・シカゴで行われる第100回大会の準備は全て終わっていると考えられます。

さて、山田国際第2副会長はご自分の国際会長就任までに日本の会員を倍増する目標を立てられました。これまで毎年度会員増を目指してきましたが、いずれも満足すべき結果は得られませんでした。本年6月末の日本の会員数も、若干下げ止まった感はありますが、まだマイナスを呈しています。

このような状況下、会員の倍増は至難の業と思われるかもしれません。あらゆる方策を駆使し、その実現に向けてまい進しなければなりません。その方法はこれからさまざまな機会を通じて皆様に提示されると思います。私たち日本ライオンズは日本からの国際会長誕生を強く願って L 山田を推薦し、とうとうその悲願がかなったのです。執行役員として存分にリーダーシップを発揮し、任務を全うして頂くために L 山田にライオンズクラブ国際協会のも、私たちはその思いを自分たちのものとして受け止め、日本の会員倍増の実現に向けて精いっぱい努力していこうではありませんか。

夢は大きくと言われますが、私はこの数字は実現不可能なものではないと思っています。そのためには目標達成に向けて日本のライオンズの心が一つになる必要があります。会員の皆様の絶大なご支援を心からお願いするものであります。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

Image courtesy of the Singapore Tourism Board

OSEALフォーラムの舞台は進化し続ける都市国家シンガポール

第52回東洋・東南アジア（OSEAL）フォーラムは11月7～10日、シンガポールで開催される。アジアの金融センターとして、また観光都市として進化を続けるシンガポール。中でも注目を集めるマリーナ・エリアの巨大複合施設マリーナベイ・サンズが、今回のフォーラムの会場となる。ベイサイドにそびえる3本のタワーの上に船を乗せたようなユニークな建物は、シンガポールの今を象徴する景観だ。開会式やセミナーなどのフォーラム公式行事は、この施設内にあるサンズ・エクスポ&コンベンションセンターで開かれる。フォーラム・テーマは「連結性（Connectivity）」。登録料120米ドル。主な日程は次の通り（8月末現在・フォーラム組織委員会発表）。

■**11月7日（木）** 13時～17時：登録

■**11月8日（金）** 8時半～17時：登録
9時～17時：バザール
13時半～17時：開会式

■**11月9日（土）** 9時～17時：登録
9時～17時：バザール
13時半～15時：「奉仕における連結性」セミナー
18時～19時：第53回OSEALフォーラム・韓国ナイト
19時～22時：国際会長晩餐会

■**11月10日（日）** 9時～12時：バザール
10時～12時：閉会式

公式ウェブサイト：www.52oseal2013.org

山田實紘国際第2副会長と日本ライオンズのアイデンティティーを語る会

8月23日、愛知県名古屋市のウェスティン・ナゴヤキャッスルにおいて、「日本ライオンズのアイデンティティーを語る会」が開かれた。この日は同会場で山田實紘国際第2副会長の激励会が予定されており、これに合わせて山田国際第2副会長の呼び掛けで開催したもので、国内の地区ガバナー、第1及び第2副地区ガバナーら66人が出席した。会では武久一郎、清水英徳両国際理事のあいさつに続いて、山田国際第2副会長が国際協会の情勢や日本ライオンズの現状、問題点について自らの考えを述べた。

その中で山田国際第2副会長は、日本ライオンズは国際的な潮流から取り残されており、その打開策として、各地区と国際協会のつながりを強化することが必要だと指摘。そのために「全国ガバナー連絡会」の開催と、国際理事、GMT/GLTの会則地域副リーダーとエリア・リーダー、LCIFのステアリング委員と開発エリア・コーディネーター、複合地区協議会議長を構成員とする「日本ライオンズ国際委員会」の設置を提案。このうち全国ガバナー連絡会についてはこの日の「語る会」を第1回とし、年4回開催する構想を示した。また、インドや中国が順調な会員増強を続けて台頭する中、日本が国際協会内で影響力を維持していくには会員増強が不可欠だとし、日本の会員数を20万人に増やす目標を打ち出した。この目標を実現する方策の一つとして、特に家族会員の増強を図ることを挙げ、各地区の理解と協力を求めた。

八複合地区が推薦する2014~16年国際理事候補者が決定

8月6日、日本ライオンズ連絡事務所で第1回国際理事候補者選挙管理委員会(菅原雅雄委員長)が開催された。会議ではまず、2014~16年国際理事の東洋・東南アジア(OSEAL)地域の定数が3人であること、またOSEAL内の国際理事ローテーション合意により日本、韓国、308複合地区(マレーシア、シンガポール、ブルネイ)から各1人を出すことを確認。国際理事立候補者推薦手続規則にのっとり、7月31日の締め切りまでに推薦要望書が提出された、西川義規元協議会議長(335複合地区/兵庫県・姫路白鷺ライオンズクラブ)を、330~337複合地区の推薦する14~16年国際理事候補者とすることを決定した。

GMT/GLTの2013・14年度組織

今年度、グローバル会員増強チーム(GMT)とグローバル指導力育成チーム(GLT)の国際チームに、バリー・パーマー国際会長の任命を受けて新たなメンバーが加わった。

【GLTエリア・リーダー】
東日本担当:大野元裕元330・C地区ガバナー
西日本担当:鈴木誓男元334・A地区ガバナー

【GMT特命エリア・リーダー】
●家族会員開発エリア・リーダー
東日本担当:石井征二元330複合地区協議会議長
西日本担当:奥村仁志元334複合地区協議会議長
●女性会員開発エリア・リーダー
東日本担当:河合悦子元330複合地区協議会議長
西日本担当:松井和子元337・A地区ガバナー

GMT特命エリア・リーダーは、今後日本で会員増強が期待される分野を専門に担当するため、日本にのみ特別に新設された役職。GMT、GLT両チームの会則地域副リーダー、GMTのエリア・リーダーには交代はない。

また日本が所属する東洋・東南アジア(OSEAL)地域のGMT会則地域リーダーが交代し、ウィンクン・タム元国際会長が選任された。

■2012-13年度ライオン誌日本語版事務所決算公告

貸借対照表（単位：円）　　2013年6月30日現在

資産の部	254,983,120	負債の部	34,295,943
流動資産	(253,060,439)	流動負債	(8,221,180)
現金	31,351	未払金	6,639,398
普通預金	56,254,183	前受金	583,459
定期預金	180,000,000	預り金	998,323
郵便振替貯金	11,238,021		
未収入金	510,999		
貯蔵品	116,445		
頒布品	1,600,913		
前渡金	456,886		
前払費用	1,425,140	固定負債	(26,074,763)
立替金	1,426,501	退職給付引当金	26,074,763
仮払金	0		
		正味財産の部	220,687,177
固定資産	(1,922,681)	基金	130,000,000
有形固定資産	(178,114)	資料整備準備金	13,342,234
什器備品	178,114	事務改善等積立金	24,310,390
無形固定資産	(281,767)	為替差損準備金	25,408,786
電話加入権	239,200	未処分収支差額金	(27,625,767)
コンピュータソフトウエア	42,567	前期繰越収支差額金	25,461,114
その他の固定資産	(1,462,800)	当期収支差額金	2,164,653
差入保証金	1,462,800		
合計	254,983,120	合計	254,983,120

収支計算書（単位：円）　　自2012年7月1日 至2013年6月30日

収入の部			
科目 項目	予算額	決算額	差額
購読料収入	106,800,000	108,999,992	△2,199,992
国際会費還付金	46,800,000	49,816,842	△3,016,842
特別負担金	60,000,000	59,183,150	816,850
広告料収入	9,600,000	7,792,102	1,807,898
その他収入	4,330,000	3,717,480	612,520
頒布品収支差額	2,500,000	1,831,082	668,918
受取利息	130,000	62,215	67,785
雑収入	1,700,000	1,824,183	△124,183
特別収入	1,100,000	1,221,436	△121,436
事務改善等積立金取崩高	1,100,000	1,221,436	△121,436
為替差損準備金取崩高	0	0	0
収入合計	121,830,000	121,731,010	98,990
合計	121,830,000	121,731,010	98,990

支出の部			
科目 項目	予算額	決算額	差額
直接出版費	60,759,000	59,319,520	1,439,480
印刷費	33,579,000	33,579,000	0
発送事務費	13,860,000	13,549,935	310,065
旅費交通費	4,800,000	4,451,063	348,937
編集関係諸費	500,000	357,269	142,731
原稿料･編集費	8,000,000	7,359,114	640,886
広告関係諸費	20,000	23,139	△3,139
委員会費	5,150,000	5,950,618	△800,618
旅費交通費	5,100,000	5,899,970	△799,970
会議費	0	24,948	△24,948
雑費	50,000	25,700	24,300
東日本大震災被災クラブ特別費	1,100,000	1,221,436	△121,436
事務費	53,721,000	53,074,783	646,217
人件費	30,000,000	30,084,255	△84,255
福利厚生費	5,000,000	4,829,565	170,435
旅費交通費	1,200,000	1,456,160	256,160
通信費	1,500,000	1,389,321	110,679
備品費	200,000	480,178	△280,178
事務用品費	750,000	848,511	△98,511
図書費	30,000	19,785	10,215
消耗品費	20,000	19,178	822
IT関連費	1,800,000	1,848,420	△48,420
顧問料	851,000	819,000	32,000
支払手数料	90,000	88,714	1,286
保守･修繕費	0	0	0
借室料	7,700,000	7,679,700	20,300
水道光熱料	180,000	139,616	40,384
租税公課	300,000	265,258	34,742
減価償却費	800,000	451,882	348,118
退職給付費用	2,800,000	2,228,312	571,688
雑費	500,000	426,926	73,074
固定資産廃棄損	0	2	△ 2
支出合計	120,730,000	119,566,357	1,163,643
当期収支差額金	1,100,000	2,164,653	△1,064,653
合計	121,830,000	121,731,010	98,990

■2012-13年度日本ライオンズ連絡事務所決算公告

貸借対照表（単位：円）　　2013年6月30日現在

科目	金額	科目	金額
Ⅰ資産の部		Ⅱ負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
現金	53,253	預り金	257,002
銀行預金	54,153,259	未払消費税	301,000
前払金	211,055	未払金	232,174
頒布品	7,399	流動負債合計	790,176
流動資産合計	54,424,966	2. 固定負債	0
		負債合計	790,176
2.固定資産			
(1)基本財産		Ⅲ正味財産の部	
銀行預金	50,000,000	1.指定正味財産	
基本財産合計	50,000,000	基本金	50,000,000
(2)特定資産	0	2.一般正味財産	66,217,772
(3)その他の固定資産		正味財産合計	116,217,772
敷金	11,263,392	負債及び正味財産合計	117,007,948
什器備品	5,077,252		
什器備品減価償却累計額	△3,757,662		
その他固定資産合計	12,582,982		
固定資産合計	62,582,982		
資産合計	117,007,948		

収支計算書（単位：円）　　2012年7月1日～2013年6月30日

科目	予算額	決算額	差異
Ⅰ事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	36,000,000	36,852,120	△852,120
受取利息収入	2,000	2,578	△578
基本財産利息収入	10,000	11,953	△1,953
雑収入	2,400,000	2,400,000	0
各種会議旅費分担金収入	8,100,000	7,537,496	562,504
頒布品売り上げ収入	18,040,000	18,677,170	△637,170
事業活動収入計	64,552,000	65,481,317	929,317
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
議長連絡会議費	400,000	173,163	226,837
委員長連絡会議費	100,000	123,389	△23,389
議長連絡会議旅費	4,500,000	3,275,140	1,224,860
委員長連絡会議旅費	3,600,000	4,262,360	△662,360
頒布品製作費・送料	14,000,000	13,309,063	690,937
②管理費支出			
会計監査旅費	600,000	390,520	209,480
国際大会･アジアフォーラム関係費	950,000	777,969	172,031
人件費	16,500,000	16,266,900	233,100
福利厚生費	3,500,000	3,447,890	52,110
印刷費	1,100,000	926,366	173,634
通信費	1,550,000	1,288,498	261,502
旅費交通費	800,000	749,104	50,896
借室料水道光熱費	9,000,000	0	9,000,000
地代家賃	0	8,082,240	△8,082,240
水道光熱費	0	635,225	△635,225
リース・レンタル料	1,870,000	1,894,813	△24,813
事務用品費	300,000	86,928	213,072
図書費	70,000	66,396	3,604
顧問料	882,000	882,000	0
支払手数料	150,000	105,987	44,013
雑費	70,000	317,061	△247,061
租税公課	250,000	301,000	△51,000
事業活動支出計	60,192,000	57,362,012	2,829,988
事業活動収支差額	4,360,000	8,119,305	△3,759,305
Ⅱ投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
Ⅲ予備費支出	0	0	0
当期収支差額	4,360,000	8,119,305	△3,759,305
前期繰越収支差額	45,515,485	45,515,485	0
次期繰越収支差額	49,875,485	53,634,790	△3,759,305

注：1. 複合地区連絡会議規定第6条により、各種連絡会議の出席者旅費は各複合地区が均等に負担されています。各複合地区が負担された旅費は「各種会議旅費分担金収入」に計上しています。会計監査委員の旅費は、連絡事務所会費収入から直接支出してします。
2. 流動資産54,424,966－流動負債790,176＝次期繰越収支差額53,634,790円
3. 旧科目「借室料水道光熱費」を「地代家賃」「水道光熱費」「雑費」に分けて計上しています。「雑費」には、清掃費・ゴミ処理代の年間予算額25万円を振り替えます。

8月承認の視力ファースト、ライオンズクエストの交付金

8月にLCIFの視力ファースト諮問委員会、ライオンズクエスト諮問委員会がそれぞれ開催され、交付金申請事業の審査が行われた。視力ファースト諮問委員会では32件総額747万5345ドルの交付を承認。この中には、トラコーマ予防に取り組むエチオピアのライオンズとカーター・センターの提携事業（交付金200万ドル）、ニジェールのライオンズがフランスの支援組織と提携して実施する眼科ケアの拡大と質の向上を図る事業（交付金108万8515ドル）などがある。またブラジルのアマゾン地域における視覚障害の調査研究のためサンパウロ連邦大学に交付される8万5千ドルなど、調査プロジェクト5件への交付も承認された。一方、ライオンズクエスト諮問委員会では、26件145万1133ドルの交付が承認された。このうち日本への交付は以下の通りで、計16件59万3千ドル。▼330・C地区＝2万5千ドル▼331・A、B、C＝8万ドル▼332・B＝2万5千ドル▼333・A＝2万5千ドル▼333・B、C＝10万ドル▼333・E＝2万5千ドル▼334・A＝2万5千ドル▼334・B＝2万5千ドル▼334・C＝2万5千ドル▼335・A＝2万5千ドル▼335・B、C＝10万ドル▼335・D＝2万5千ドル▼336・A＝2万5千ドル▼336・B＝1万8千ドル▼336・C＝2万ドル▼337・D＝2万5千ドル

会議録

■**第1回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議**（7月23日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：佐藤精一郎、伊藤信賢、若木幹、小板橋欽也、柳原宏行、森本克幸、渡部雅文、鬼塚俊郎各議長、武久一郎、清水英徳両国際理事）【第I部：議長協議】①「山田第2副会長と議長の懇話会」②パーマー国際会長公式訪問③第52回OSEALフォーラム（13年11月7日～10日／シンガポール）④日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑤2016年第99回福岡国際大会のお願い【第II部：国際役員との懇談】⑥ハンブルク国際理事会報告⑦パーマー国際会長公式訪問

■**第1回ライオン誌日本語版委員会**（7月29日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：武久一郎、清水英徳両国際理事、小板橋欽也議長、大熊泰雄、茂尾実、小西宗仁、大村行範、団英男、組嶽晶一、田崎登保各委員、中居雅博、矢口武克12・13年度委員、荘英隆、辰巳博昭、小柴登司各ITアドバイザー）①2012・13年度ライオン誌日本語版事務所「決算報告」②12・13年度ライオン誌日本語版事務所「監査報告」③12・13年度ライオン誌日本語版委員会「年次報告」④13・14年度ライオン誌日本語版委員会委員長、編集長選出⑤「ライオン誌日本語版委員会方針」の確認⑥13・14年度ライオン誌日本語版事務所予算（案）⑦2013年8月号（9万7600部発行）出来⑧9月号記事内容の確認⑨10月号以降台割（案）と主要記事予定⑩ライオン誌出版物⑪ライオン誌ウエブマガジン／eMMR ServannA⑫その他

■**第1回国際理事候補者選挙管理委員会会議**（8月6日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：菅原雅雄、奥山幸一、千葉龍二郎、川崎弘、丸山正芳、中村房雄、迫越正彦、林榮一各委員、小板橋欽也議長）①委員長の互選②国際理事立候補者推薦手続規則の確認③14～16年度国際理事選出の確認④推薦要望を提出した国際理事候補者⑤推薦要望書の内容確認と審議⑥各選挙管理委員の意見⑦決定に伴う事務処理

■**第1回複合地区国際大会委員長連絡会議**（8月14日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：石井征二、山口富雄、山口一男、塚田雅二、石井博之、小林登、福永栄一、識名安信各委員長、小板橋欽也議長）①世話人、副世話人の互選②国際大会委員長連絡会議の任務及び実務③第96回ハンブルク国際大会④第52回東洋・東南アジア・フォーラム⑤第97回トロント国際大会

解散／クラブ名称変更

■解散クラブ
8月＝神奈川県・横浜栄／新潟千歳

■クラブ名称変更
鹿児島県・樋脇・市比野→樋脇よさこい

訃報

■元国際役員
ライオン南清右衛門（滋賀県・野洲）
8月29日死去。74歳。2012年度335・C地区ガバナー。

LIONS ON LOCATION 世界で奉仕するライオンズ（『ライオン誌』本部版より）

ブラジル

豪快なバーベキュー

ブラジル中南部、「三つの池」を意味するトレス・ラゴアスの町は、人口10万人。頑強な気質で知られる町の豪快な祭とロデオ大会は、たくさんの人出でにぎわう。

会員数33人のトレス・ラゴアス ライオンズクラブもまた、何をするにも豪快。牛1頭を丸ごと焼いた巨大なバーベキューを、市民数百人に振る舞った。

ノルウェー

ショッピングで補助犬育成支援に協力を

ハンガリーのライオンズは補助犬育成の支援に市民の協力を求めようとしていた。ターゲットにしたのが、この問題に最も理解を示してくれそうな人々、ペット愛好者だ。人口17万人のミスコルクにある二つのライオンズクラブの会員は、町で人気のペットショップに補助犬を連れて行き、買い物客にその役割を説明して支援を求めた。ライオンズは金銭の寄付の代わりに、店で購入したドッグ・フードなどの商品を用意したショッピング・カートに提供してくれるよう要請。6時間の活動で2千ドル相当の品物が集まった。

両クラブが支援する補助犬の育成施設は、ハンガリー国内の補助犬の約半数を育てている。施設に対する政府の補助が打ち切られたことから、ライオンズの支援は非常に喜ばれている。

ハンガリー

古本市収益で地域と世界に奉仕

オスロ・ベルグ ライオンズクラブが運営する古本市の会場は、かつて防空壕として使われた施設だ。吹き抜けの広い空間に大量の本が並ぶ。7日間にわたるイベント期間中、メンバーは目の回るような忙しさとなる。

1976年に始まったこの古本市では、30分野に分類された5万5千冊の本が販売される。客の多くは毎年足を運ぶリピーターで、延べ数千人の愛好家やコレクターが、ぎっしり埋まった本棚を行き来して掘り出し物を探す。第1回の時はメンバーが自分の本棚から持ち寄った本を販売したが、今はインターネットやメディアを駆使して協力を募る。保管場所でもある会場は市が無償提供してくれるので、クラブの負担は維持費だけで済む。

この古本市の収益で、クラブは地域で補助犬の育成、青少年や高齢者に対する支援などを実施。更にアフリカのガーナで学校と孤児院を、マリではヘルスケアや女性の就業を支援する事業を継続している。

LCIF FILE

Foundation Impact / LCIF Development Update

Foundation Impact

プロ・サッカー選手、ライオンズクエストをキックオフ（始動）

スポーツ・チームは地域に一体感を与える。ノルウェー・サッカー1部リーグのサンドネス・ウルフの本拠地もそんな町の一つだ。そこで、サンドネスライオンズクラブは、人気抜群のサッカーをライオンズクエスト・プログラムと結び付ける企画を考えた。

　ライオンズクエスト認定講師のトロンド・レクスタッドの息子が、サンドネス・ウルフのジュニアチームに所属していたことから、ライオンズはレクスタッドと共に、サンドネス・ウルフのマーケティング部長と面会。地域の学校でのライオンズクエスト大使をチームに担ってもらえないか打診してみた。チームも地域――特に子どもたちのために何か出来ないか模索していたところだったので、すぐに賛同してくれ、パートナーシップを結ぶことになった。

　ライオンズは選手に、小学5年生の授業で、いじめや薬物に「ノー」と言うこと、意志決定、そして目標を達成するために努力することについて話をしてもらうよう依頼した。そこでレクスタッドは、選手たちが授業に備えるためのワークショップを開催した。そして選手たちに、彼らの経験を生徒たちが共有出来るような授業にしてほしいと話した。

「皆さんは、プロになるために多くの選択をしてきました。皆さんは青少年にとって英雄です。子どもたちは皆さんを尊敬しています。だから、その前向きな態度を小学5年生に伝える手伝いをしてほしいのです」

　選手たちのうちの何人かは学校を中退している。また他国出身の選手は、ノルウェーで新しい文化に適応して、人間関係も新たに構築しないといけなかった。全員がフィールドで成功を得るために犠牲を払い、苦渋の決断をしてきた。選手が子どもたちにこのような体験や前向きなメッセージを話すと、彼らはしっかりと話を聞く。

　子どもたちは心に残る授業の間、彼らの英雄に会い、彼らの人生に関わる問題について話し合う。授業の終わりには、選手からサインをもらい、試合のチケットも受け取る。これらは子どもたちにとって一生忘れられない魔法の時間として心に残る。

　サンドネス・ウルフはフィールドでの成功と同様、ライオンズクエストも成功に導いた。選手たちは背中にライオンズクエスト・ノルウェーのロゴが付いたユニフォームを着る。フィールドにはライオンズクエストの広告板が設置され、ハーフタイムにはライオンズクエストのビデオが大きなスクリーンで流され、スタジアムに行けない人にはラジオ・スポットさえもある。

　サンドネス・ウルフはこれまでに10校を訪問。13年にも10校の訪問を予定している。授業を実施した学校の児童は、選手から学んだ積極的な取り組み方を実生活の場で役立てており、教師たちも大いに注目している。サンドネス・ウルフが訪問したうちの4校は、ライオンズクエストの教師用ワークショップを開催し、更に2校でワークショップが予定されている。

　ノルウェーのライオンズは毎年、チューリップ販売プログラムを実施し、12年には200万ドル以上を集め、そのうちの約30万ドルがライオンズクエスト・プ

ログラムに充てられた。ライオンズはまた地元の学校や国内のライオンズにこのプログラムを紹介することを目的に、50人以上の会員から成る「パイロット（案内人）」団を結成。その活動により、昨年度は200件のワークショップを主催し、これまでにノルウェーの447クラブのうち、約400クラブがワークショップを実施している。

「ライオンズクエストは家庭、学校、地域間の協力を促進します。更に、私たちが次代への責任を負う意思があることを示すプログラムでもあります。そして、ノルウェーでこのプログラムを提供出来る唯一の奉仕団体が、ライオンズクラブなのです。ライオンズクエストを通して、ライオンズに対する地域の人たちの理解が深まり、我々と一緒に奉仕に参加したいと考える人も確実に増えています」

ノルウェー・ライオンズクエストのアイバー・トルフスラッド理事は語る。ライオンズや、サンドネス・ウルフのようなパートナーの支援のおかげで、次世代は安泰のようである。

（クリストファー・バンチ）

LCIFクラシックゴルフJAPAN 実施要項

参加条件：今期少なくとも1口のMJF献金をしてくださる方

日時：2013年11月14日

場所：京和カントリー倶楽部（愛知県豊田市中立町井ノ向7-1）

集合時間：プレーの30分前

競技方法：Wペリア

参加費：一人2万円（ただし今季10口以上献金してくださる方は無料）

募集人数：140人（35組）

申し込み先：LCIF開発日本事務所（担当／飯田　FAX: 086-214-561）

参加締切日：10月15日

LCIF Development Update

日本のお盆休みの最中にLCIFステアリング委員会がシカゴで開催されました。委員は全部で16人ですが、そのうちOSEALからはカジット・ハバナナンダ、テーサップ・リー、ウィンクン・タムの3人の元国際会長と、栢森新治（日本）、チンリー・リー（台湾）両元国際理事の5人が選ばれています。通常は各地域平等という考え方が基本ですが、ことLCIFに関しては献金の半分がこのエリアからという背景があるため、自然とOSEAL勢が重要視されます。

今回の会議では、栢森元理事からの提案で、一般援助交付金の下限額を明確にすることが議論されました。その結果、これまで決まっていた上限額（7万5千ドル）に加え、7500ドルの下限額を設けることになりました。もう一点、2017年に開催される第100回国際大会を記念するために、1億ドルを集める案が出され、今後この計画を詰めていく予定になっています。

◆

さて、このLCIFステアリング委員会の期間中に、私が担当している資金開発課にとって、新たな仕事が生まれました。それは、各地で開催されているチャリティー・ゴルフにヒントを得た「LCIFクラシックゴルフ」の開催です。

参加条件は今年度中にMJFとなる千ドル献金をして頂くこと。この条件の下、趣味のゴルフを通じて、楽しみながらLCIFへ貢献して頂こうという趣旨です。これを例えば、日本、台湾、韓国、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカで開催し、各大会に20組80人が参加したとすれば、少なくとも480口のMJF献金が集まることになります。

幸い、ウェイン・マデンLCIF理事長はゴルフがお好きで、この案はすぐに承認されました。

そこで、ちょうどステアリング委員会で国際本部においでだった栢森元国際理事と、台湾のチンリー・リー元国際理事に相談したところ、協力して頂けることになり、更に日本の大会委員長は山田實紘国際第2副会長にお願いすることになりました。

国際本部からはマデンLCIF理事長と、スコット・ドラムヘラー事務総長兼法律部長の二人が参加する予定です。理事長にはOSEALフォーラム後に日本と台湾に寄って頂き、LCIFクラシックゴルフを実施します。興味のある方はご参加くださいますようお願い致します。

（LCIF資金開発課／田辺憲雄）

333-C地区

千葉県・習志野ライオンズクラブ

谷津干潟を囲む黄色いハンカチ

東京の中心部から車で約40分という距離にラムサール条約に登録された谷津干潟がある。周辺にはJR京葉線や国道357号などが通っているが、この谷津干潟は多くの渡り鳥が訪れ、多様な生物が棲息する湿地だ。周辺には遊歩道があり、至近距離でオオタカがカモなどを捕食する姿も見られる。一方で、アオサの異常繁殖など、住宅地に隣接する環境保全の難しさに直面している場所でもある。

谷津干潟がラムサール条約に登録されたのは1993年6月10日のこと。今年20周年を迎えた。そこで習志野市が主催、習志野ライオンズクラブ（央重則会長／31人）が協賛し、8月24日に「愛で包もう谷津干潟」が実施さ

メッセージは当日の受付後にも書ける。高校生なども多く参加しており、地域一丸となってイベントを盛り上げようとしていた

CLUB REPORT

クラブ・リポート

●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。
ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。
送付先は57ページ下。

れた。これは遊歩道沿いに黄色いハンカチを持った人が並び、干潟を囲むイベントだ。他にも習志野中央ライオンズクラブやロータリークラブ、商工会議所などが協賛、市を挙げての実施となった。

使用する黄色いハンカチにはメッセージが書いてある。実行委員会は学校や連合長会などに出向き、メッセージを募集。駅前や、お祭りでも呼び掛けると共に、全国のラムサール条約登録地、オーストラリア、韓国、台湾などにもメッセージの記入を依頼した。

習志野市は東西に広く、谷津干潟は比較的西部に位置するため、東部の人々にはあまりなじみがない。しかし、ハンカチへのメッセージ記入を呼び掛けたところ、東部でも谷津干潟を守ろうという意識を持つ人が増えてきた。それまで谷津干潟と交流がなかった日本大学生産工学部では、この活動に賛同する学生や教員が自発的に黄色いハンカチのメッセージを集めてくれた。他にも多くの団体が自主的に黄色いハンカチを収集。結果、目標の1万3千枚を超える1万7千枚が集まった。

当日の参加者は子どもからお年寄りまで、幅広い年齢だ。干潟を囲む黄色いハンカチの円が出来ると、みんなでウェーブ。その後は、道行く人にメッセージを見てもらうため、黄色いハンカチを欄干にくくりつけた。

今年は他に6月と10月にも谷津干潟でイベントを実施。目的やコンセプトを変えて行うことで、より多くの人に谷津干潟について考えてもらえるよう工夫した。身近な環境問題を考える機会にもなるため、クラブでは今後も継続して谷津干潟関連の事業を実施していく予定だ。

(取材/井原一樹　撮影/関根則夫)

331-A地区

北海道・サッポロシニア ライオンズクラブ

15周年記念 薬物乱用防止教室

サッポロシニア ライオンズクラブ（28人）は、今期結成15周年を迎えた。その記念として、薬物乱用防止教室を札幌市内12の小・中学校で開催することにした。2010年度に2校で教室をスタートさせて以来、11年度は6校、12年度は8校と増やした。4年目となる今年度は2桁での開校。参加生徒は、累計1300人に上る。クラブの講師も3人から7人に増えた。

「参加生徒が千人になったら、15周年の立派なアクティビティになる」と、先輩のライオンから、背中を押された。そこで、以前教室を開催した学校の校長・教頭の異動先を調べ、そこでの開催も要請。親しくしている校長にも協力してもらい、目標を達成出来た。

この教室を青少年健全育成事業の大きな柱としたのは、3年前に、ある小学校で開催したことがきっかけだ。6年生2人が「僕は薬物を1回やろうと思っていた。今日、講師の話を聞いて止めることにしました」と、アンケートに書いたのだ。ショックだった。子どもたちが薬物に汚染されないうちに市内の全小学校で開催すべきだと考えるようになった。

最近は薬物についての話だけでなく、「どう生きるか」についても話してほしいという要望が来るようになった。そのため、ライオンズクエスト・プログラム認定講師の「否定的でなく肯定的に物事を考えよう」という教えをヒントにした話もすることにしている。

例えば、友人と遊ぶ約束をしたのに来なかった時のこと。「絶交された」と否定的に考えるのではなく「やむを得ぬ事情があったんだ」と明るい方向に考えた方がいいという話だ。

クラブではアンケートを書いてもらった礼状を参加生徒全員に渡している。この教室によって薬物の怖さを認識し、明るく育っていってくれることを願っている。

（会長／吉田英則）

337-C地区

佐賀若楠ライオンズクラブ

川開き前の恒例事業 多布施川の清掃

7月14日、佐賀若楠ライオンズクラブ（中島新太郎会長／40人）は護国神社前を流れる多布施川の清掃を行った。この川では7月の半ばから8月の半ばまで川遊びが出来る。今年は20日が川開きだったため、それに合わせて実施した。これには地域住民も参加。合わせて約380人が早朝に遊泳場や境内を清掃した。

当クラブが結成されたのは1982年のこと。そのチャーターナイトで宣言した「市民と共に町をきれいに」を目標に奉仕活動の輪を広げてきた。そんな中、佐賀市の中心にある多布施川を子どもたちが安心して川遊びが出来る場所にしようという意見が出てきた。そこで、地域の方々や各種団体に呼び掛けを行った結果開設されたのがこの遊泳場だ。その後、当クラブでは30年間にわたってメンバー一同、清掃奉仕を継続してきた。

今年も清掃参加者は川に入り、小石やガラス片、空き缶などを一つずつ拾って、遊泳する子どもたちがけがをしないように清掃した。佐賀市中心部にある勧興小学校、日新小学校の子どもたち、保護者も参加。自分たちが楽しく遊ぶ場所づくりに貢献していた。また、彼らにとって、大人が一生懸命汗を流してがんばっている姿を見ることは、自然環境を守っていく心を培い、人間性も養うことにつながると思う。子どもたちにとって、この清掃活動を含めて夏のいい思い出となってくれれば幸いだ。

今後も地域住民の方々と共に奉仕活動に励んでいきたいとメンバー一同思っている。

（会則付則情報指導力会員委員長／畠中嘉浩）

336-A地区

香川県・高松南ライオンズクラブ

小、中学校を回る盲導犬学校キャラバン隊

高松南ライオンズクラブ（宮内和彦会長／30人）は主に四つの事業を継続している。一つ目は高松空港東ウイングエリアの植樹。次に国際平和ポスター・コンテスト参加、献血奉仕、そして盲導犬の普及と育成援助活動だ。特に盲導犬は力を入れている。

㈶日本盲導犬協会の支援、協力を得て実施しているのが盲導犬学校キャラバン隊だ。これは県内の小、中学校に盲導犬と共に訪問し、ボランティア精神を育むための講習を行うというもの。生徒や保護者、先生方の前で、盲導犬の仕事を実演することで、その存在をより身近に感じてもらう。同時に街で盲導犬に会ったらどうしたらいいかを知ってもらう取り組みだ。

盲導犬は目の見えない人、見えにくい人が安全に歩くための手伝いをしてくれる。この盲導犬学校キャラバンではアイマスクを付けて盲導犬と一緒に歩く実体験なども行っている。また、実際に盲導犬と一緒に生活している人にも協力してもらうなど、彼らが暮らしやすい社会の実現を目指して活動している。

2011年5月から始めたこの活動も延べ29の学校で4500人近くを対象に行ったことになる。募金箱を設置したり、チャリティー・ゴルフ大会を開催したり、クラブから育成資金を拠出したり、と工夫をしながら資金を捻出している。

うれしいことに、参加した4校の生徒全員が感想文を書いて送ってくれた。これを見ると今後の活動に対して勇気付けられると共に、使命感を覚える。

（盲導犬普及特別委員長／川崎秋雄）

337-A地区

福岡早良ライオンズクラブ

新クラブ結成へのいばらの道

2012年9月頃、福岡リバティ ライオンズクラブ結成30周年記念事業として、新クラブ結成の話が持ち上がった。しかし、当クラブには新クラブを結成する体力がなく、例会でも反対意見が出た。そんな中、病気から復帰したライオン中原利房が「こんな時代だからこそ、挑戦したい」と発言。彼を中心に新クラブ結成準備会が立ち上がり、仁田辰治元ガバナー、岡部定一郎会長（当時）と私がアドバイザーで参加した。

新クラブはライオン中原を除き新会員で発足するため、12月20日までに20人を集めることになった。私もライオン中原も会員集めに奔走。期日までに入会予定者をそろえた。しかしその後、入会をやめる人が現れた。挫折感と悲壮感に押しつぶされそうになった私とライオン中原は責任を取って退会する寸前まで追い込まれた。

そんな時、岡部会長と岡田崇会計が6人もの友人を紹介してくれ、他にも元リジョン・チェアパーソンらの参加が決まった。そして2月22日、福岡早良ライオンズクラブは結成式を実施出来た。ライオン中原のご令息、ご令嬢、私の長男まで動員し、入院中にもかかわらず参加してくれた友人もいた。ライオンズに入会して以来40年間で、これほど感動を覚えたことはない。5月19日には、新会員30人で認証状伝達式を開催。私自身も8人を紹介した責任から転籍することにした。

山あり谷あり。新クラブ結成が容易ではないということを体験した。私は認証状を受け取る中原初代会長を見て涙があふれ、万感胸に迫る心情であった。

（和田耕司）

334-B地区

岐阜県・土岐織部ライオンズクラブ

土岐市内の中学生と共に 震災復興支援ボランティア・ユースキャンプ

「震災のニュースをテレビなどで見ている時は、実感として捉えることが出来ず、何か絵空事のように感じていました。そんな時にボランティア・ユースキャンプの募集があり、迷わず応募しました。現実を見ることで、もやもやした心をはっきりさせたかったからです。実際の被災地は、自分が思っていた以上にひどく、残酷な状態でした。でも、被災された方たちの話を伺って、人の思いの強さが死んでいなければ、街は何度でもよみがえり、またがんばれるということを実感しました。この経験を生かして、1日1日を大切に生きていこうと思います」（土岐津中学校3年・永田英嗣君）

8月23〜25日、土岐織部ライオンズクラブ（加藤万寿夫会長／53人）主催の「震災復興支援ボランティア・ユースキャンプ」が、宮城県南三陸町で行われた。キャンプには土岐市内6中学校の1年生から3年生37人が参加。生徒たちはボランティア活動として植樹や畑の草取りをした他、被災現場を視察したり、被災された方の体験談を聞くなど、中身の濃い3日間を過ごした。

土岐織部ライオンズクラブは結成20周年を迎える今年度を前に、青少年健全育成と震災復興支援を柱に記念事業の企画を始めた。その過程で、両事業の合体が提案され、今回のアクティビティが生まれた。

募集は各中学校に出向いて生徒数分の要項を配布。当初は25人の定員を設けていたが、80人を超える生徒から応募があり、急きょクラブで予算を調整して、37人まで増員することが出来た。

初日は23日の早朝6時過ぎに、加藤靖也土岐市長の見送りを受け市役所前をバスで出発。中央自動車道〜上信越自動車道〜関越自動車道〜北関東自動車道〜東北自動車道〜仙台東部道路と走り、12時間を掛け南三陸へ到着。大正大学の援助で建設され、地元有志によるNPOが運営する宿泊研修施設「いりやど」を拠点にキャンプのスタートを切

った。最初のプログラムで被災体験を話してくれたのは「いりやど」近くの仮設住宅に住むライオン工藤泰彦（南三陸志津川ライオンズクラブ）だった。

参加した生徒たちに聞くと、被災地での体験学習と共に、このライオン工藤と、2日目に講話してくれた地元高校生の話がとても印象に残ったという。特に「当たり前だと思っていた日常が、当たり前ではなくなる現実」「今日という日を大切に生きること」「家族や友達とのつながり」など、二人に共通する話を、キャンプの収穫に挙げる生徒が数多くいた。

3日間のユースキャンプを無事終えた加藤会長は、「研修、活動の過程で、参加した中学生たちの目つきや行動が変わっていくのが分かりました。今回のような事業が、地域社会の将来を担う青少年の健全育成に寄与するものと信じています」と、話していた。

（取材／鈴木秀晃）

331-A地区

北海道・札幌あさひライオンズクラブ

バットの森づくり植樹祭で息の長い奉仕の必要性を実感

野球のバットの素材となるアオダモという落葉広葉樹がある。特に北海道産は反発力があり、軽く、頑丈なことから最も優れた素材として注目されている。しかし、このアオダモ、成長が遅いため、成木になるまで約70年かかるという。更にエゾジカによる食害などが原因となって急激に数が減少しており、枯渇が心配される状況となってしまった。そこで道内では2000年からNPO法人アオダモ資源育成の会が年3回、アオダモの植樹を続けている。それを知った札幌あさひライオンズクラブ（村山仁会長／13人）は環境保全とスポーツ振興の観点から事業として取り組むことにした。

そこで7月20日、アオダモ資源育成の会が主催する「バットの森づくり植樹祭」に10人のメンバーが参加した。植樹場所は札幌から約1時間半ほどかかる苫小牧市丸山の国有林。天候にも恵まれた。開会式では「今日植えた苗木は、参加した小学生に孫が生まれる頃、ようやく成木となります」とのあいさつと植樹指導があった。

プロ野球北海道日本ハムファイターズの大野奨太選手の参加も得て、苫小牧市内の少年野球チームの小学生、高校、大学の野球部員らと一緒に、1メートルほどに育った苗木200本を植えた。

この日植えたアオダモが成木になった姿を見ることは、私には出来ない。だが、これらの木々が大きく育つことを願いつつ、私たちのアクティビティも地道に、かつ未来に向けた息の長いものにしていく必要性を実感した一日だった。

（社会奉仕委員長／小武内俊己）

332-C地区

宮城県・山元ライオンズクラブ

下半期の合同支援事業と反省

東日本大震災が発生して2年以上が経過、山元町でも復興の様子が目立ってきた。海岸沿いの防潮堤が形になり、県公営住宅団地には真新しい家屋が立ち並ぶ。特産物であるいちご栽培施設も復旧し始め、田んぼに苗の植え付けも行われた。だが、5月末の時点でまだ2千人以上が八つの仮設住宅に住んでいる。

そんな中、山元ライオンズクラブ（寺嶋敏明会長／15人）が実施した二つの合同事業を紹介する。

一つは山元町立小学校3校への図書寄贈だ。昨年2月、川崎富士見ライオンズクラブから被災小学校に図書の贈呈があり、「4年にわたり、年1回図書の増冊をする」と約束した。今回の寄贈はその計画に基づくものだ。

二つ目は町立小学校4校への教材贈呈だ。これは熊本の菊池ライオンズクラブから預かっていた支援金を活用して行った事業。

上記の二つとも小学校が望んでいるものを見定めた上で計画したものである。図書や教材は小学校によって希望する物が違う。そのため、こちらで用意出来る金額を提示して、その範囲内で希望してもらった。

これらの事業では「報告・連絡・相談・確認」と「後任者への申し送り」に注意した。学校では春に先生の異動がある。そこで、新旧の先生同士の情報の共有が出来るよう努力した。

ライオンズクラブも毎年役員の交代がある。旧役員が情報をどう残し、新役員がどう受け取るか。これをいかに工夫してシステムとして構築するかが課題であり、「報告・連絡・相談・確認と情報の共有」が大切となってくる。（前年度幹事／岩佐一郎）

333-C地区

千葉県・房州朝夷ライオンズクラブ

親子で縁台づくり

房総地方は昔から柔道が盛んで、多くの子どもたちが道場に通って柔道の練習に励んでいる。房州朝夷ライオンズクラブ（11人）の活動拠点、南房総市千倉町内にも道場が2カ所あり、前会長のライオン金元公道が警察署の道場で、現会長のライオン早川金光が相川道場という一般の道場で指導の助手をしている。

当クラブは毎年11月に行われる「全安房学童柔道千倉大会」に金銭支援をしているが、彼らに対して何か新しいアクティビティが出来ないかと議論を重ねてきた。そしてこの「親子ふれあい木工教室開催」の案が出て、今回の実施に至った。二つの道場を対象にすると人数が多くなり過ぎるため、今年は相川道場の親子を招いて実施した。来年は千倉警察の道場を対象にする。

材木業を営むライオン早川が、縁台の材料にヒノキを用意。工務店の棟梁であるライオン石井正明が指導の中心となり、参加したメンバー6人も縁台作りに協力した。

当日は全12家族がそろった後、ライオン石井が作り方の指導をし、すぐに製作に入った。初めての経験の家族が多かったため、工具の使い方がぎこちなく、四苦八苦。だが、約2時間後には全家族が立派な縁台を作り上げた。暑い一日だったため、全員汗ビッショリだったが、とても有意義な時間を過ごすことが出来た。

最後に家族を代表して、道場の責任者から感謝の言葉を頂き、今まで以上に彼らのことを応援したいと思った。

今ではヒノキのいい香りがする親子合作の縁台がそれぞれの家に置かれ、大事に使われていると思う。（幹事／鈴木俊夫）

337-D地区

鹿児島さつまライオンズクラブ

山田国際第2副会長と共に医療機器贈呈式に出席

鹿児島さつまライオンズクラブ（渡邉稔会長／52人）は、今年1月に開催されたタイのプレーライオンズクラブの結成40周年記念式典に参加した。このことをきっかけに当クラブはプレーライオンズクラブと共同でプレーの地元病院へ医療機器を贈る事業を計画した。LCIFから交付金も受け、7月17、18日に医療機器贈呈式を行う運びとなった。その式典に参加するため、当クラブでは7月16日、バンコク行きに乗り込んだ。今回は山田實紘国際第2副会長にも同行して頂き、バンコクでは就任祝賀会と当クラブの歓迎会がハバナナンダ元国際会長とタム元国際会長など大勢の方の出席の下、行われた。

翌17日はラオスとの国境に近いプレー・ナン地区へ。到着したホテルから贈呈式が行われる県病院までは地元高校生が編成する楽隊と共にパレードしながら市内を練り歩いた。贈呈式では山田国際第2副会長がテープカット。その後、皆でプレーライオンズクラブの例会に出席した。その場で山田副会長から両クラブに国際会長感謝状が贈呈された。例会後は祝賀会が行われ、大いに盛り上がった。

山田第2副会長はハンブルクから帰国後3日目にご同行頂き、就任後の初仕事として贈呈式にも立ち会って頂いた。当クラブはもちろん、現地のライオンズも深く感謝していた。式典終了後、山田副会長はその足でインドへ向かわれた。今後も執行役員としての激務が続くことになる。ライオン山田にはお体に気を付けて、その職責を全うされることを切に願いながらお別れした。（委員長／上之邦彦）

335-A地区

兵庫県・神戸あじさいライオンズクラブ

「里山復元を青少年と共に」皮剥ぎ作業体験を実施

神戸あじさいライオンズクラブ（26人）は今期、青少年健全育成のテーマを「里山の復元を青少年と共に」とした。そこで7月11日、神戸市立補導センター「くすのき教室」の生徒と共に杉林の皮剥ぎ作業体験を実施した。

当日は原不動滝観光協会・森林インストラクターの幸福重信さんや自然保護団体「日本熊森協会」のご協力を得て、生徒40人、引率の先生43人と共に神戸を出発。約2時間かけて宍粟市波賀町にある原観光リンゴ園所有の山林に到着した。

皮剥ぎとは間伐の方法の一つ。皮を剥ぐことで間伐したい木を立ち枯れさせることが出来る。重機が必要なく、枯れ木を、残したい木の防風に役立てられるやり方だ。木の幹に2カ所切れ目を入れ、力を入れると奇麗に皮が剥がれる。7月は梅雨の影響で樹木が水分を多く含むため、皮剥ぎには最適だという。

当クラブからも、77歳、70歳の老女2人が皮剥ぎにトライ。途中、苦手なヘビさんの歓迎も受けたが「白い木肌が見えた時は、うれしかった」と話していた。昼食は手作りの流しそうめんとおにぎり。当クラブ・メンバーも準備を手伝った。

この事業のために日本熊森協会の職員の方々が事前に4度も足を運び万全の準備をしてくださり、学校側も綿密な配慮をしてくださった。おかげで事故がなく終えることが出来た。

生徒たちも、森で皮剥ぎ作業という初めての体験を通じて、豊かな自然を守ることの大切さを学習してくれたようで、充実したアクティビティとなった。

（会長／山本洋子）

330-C地区

埼玉県・白岡ライオンズクラブ

東日本大震災復興支援 白岡まつり参加

白岡ライオンズクラブ（荒井富夫会長／24人）は8月3日、白岡市最大の祭り「第21回白岡まつり」に模擬店を出店した。白岡市は去年の10月に市制を施行したため、今回が市としては初めての祭りとなった。当クラブは去年に引き続いて2度目の参加。東日本大震災の復興支援と題し、メンバーの知り合いである福島市の果樹園農家「あずま果樹園」の桃を販売することで復興をPRした。

白岡まつりは2万人以上が集まる、非常に盛大なイベントだ。

「白岡ソレソレ節」での白岡踊りや舞台イベント、よさこいソーラン踊りなどが行われる。また、40を超す模擬店が出店する「商工まつり」や、赤ちゃんの手形足形を採ったり、健康診断をしたりしてくれる「健康まつり」、素敵な景品がもらえる「白岡クイズ選手権」、はしご車に乗れる「消防フェア」などイベントも目白押し。夜には千発を超える打ち上げ花火が上がる。

今年の福島県の農業総合センターの放射性セシウムの測定施設のモニタリング調査で露地物を含む果樹物1039の検体中、国の基準である100ベクレルを超える放射能を検出したものは0件。しかし、なかなか風評被害は消えず、農家の方々は厳しい販売を強いられているとのことだった。こうしたことから当クラブでは福島県の安全性をPRすべく、昨年から実施している。

当日は2500個ほどの桃を売り上げた。お買い上げ頂いた方からも「おいしく頂きました」と声を掛けられ、早期の復興を願う我々もホッとした。

（幹事／井上堅二）

336-D地区

島根県・松江湖城ライオンズクラブ

12年間に及ぶ ビオトープ奉仕活動

人々が平和な新世紀を祈りながらも、9月11日にアメリカ同時多発テロが発生し、希望が無残に打ち砕かれた2001年。松江湖城ライオンズクラブ（78人）は当時の坪内幹雄会長の下、子どもたちと地域の方の豊かな心を育むことを目的とし、母衣（ほろ）小学校傍にビオトープを作った。

以後毎年、環境・福祉委員会を中心に多くのメンバーが早朝から周辺の草刈りと清掃活動を続けている。11年には皇太子殿下にご見学頂く栄誉にも浴した。

今年は当クラブが50周年を迎える。そこで8月5日、金田春子環境福祉委員長を中心に、清掃作業を実施した。母衣小学校長始め多くの教員の方にもご協力頂いた。メンバーの多くは普段、スーツに身を固めている社長さん方。だが、当日はゴム長、古シャツ、電動草刈機や鎌を装備し、飛び散る汗や草の破片をものともせず活動する姿は感動的だった。中には大岡昇平の「野火」に出てくる旧帝国陸軍兵士が被っていた日よけのぶら下がった布の戦闘帽を想起させる代物をかぶり、汗だくで作業なさっている先輩ライオンの姿も。それを見ると戦後父が同じ帽子をかぶり、汗まみれで田畑の作業をしていたのを思い出し、胸が熱くなった。ライオンズクラブの社会奉仕の精神と、次世代や青少年に伝えるべき原点はここにあるのだろうと痛感した一日でもあった。

12年経つと葦の根が深く張るようになる。そのため、周辺のみならず池を一旦浚渫（しゅんせつ）し直さねば奇麗な水が流れない状況だ。今後は10年サイクルで池中の浚渫と泥の入れ替え作業を行い、いつまでも子どもと地域の方々が楽しめる施設の維持に努めようと思う。

（会長／宮脇和秀）

334-B地区

岐阜県・高山ライオンズクラブ

1300回記念夜例会 家族同伴で蛍鑑賞

7月17日、高山ライオンズクラブ（竹内好雄会長／54人）は通算1300回目の記念例会を、日頃お世話になっている家族同伴の夜例会として行った。当日は当クラブを代表してハンブルク国際大会に参加し、帰国した会員の労を皆でねぎらった。会員は大会パレードやハンブルク市街の様子をプロジェクターで紹介しながら報告してくれた。

この日はゲストとして国土交通省自然環境アドバイザー大森清孝氏をお招きして、飛騨地方の蛍の生態や種類に関する大変興味深い話をして頂いた。その後は大森氏の案内で実際に蛍の観察へ出向いた。

蛍の発生時期が比較的遅い当地方でも蛍の季節は終盤。また、気象条件によっても変化するため、見られるかどうか心配だったが、運良くたくさんのヘイケボタルの飛散が確認出来た。

参加者の中には初めて蛍を見たというお子さんもいて、実際に蛍を手に乗せてみるなど貴重な体験になったことと思う。少し郊外に出向けば蛍が見られる「山も水も美しい観光都市飛騨高山」に生きることの幸せを実感出来る一夜となった。大森氏とのご縁を大切に、来年からは市民の皆さんを巻き込んだ形での蛍の勉強会や鑑賞会、保護活動など新しいアクティビティにつながらないかと期待が膨らんだ。

当クラブは今年で結成55周年を迎え、周年行事も控えている。今後もこのように実りある楽しい例会を実施して参りたい。

（計画委員長／中田啓寿）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

感動と感謝のハンブルク国際大会

金山　邦彦（岐阜県・美濃加茂）

ハンブルクは世界最大級のコンテナ埠頭がある港湾都市で、ベルリンに次ぐドイツ第2の都市です。市庁舎を始めとした中世の歴史を物語るエレガントな建造物に目を奪われます。緯度が高いため夜10時を過ぎても外は明るく、出歩く人も多くいます。街路樹が植えられ自然の景観も良く、豊かな生活環境です。作曲家ブラームス、メンデルスゾーンの生誕地としても知られ、文化的な香りも高く漂います。

私にとって国際大会への参加は昨年の釜山大会に続いて2度目でしたが、今回は山田實紘国際第2副会長実現のための参加であり、決戦の地へ乗り込む緊張感を持って望みました。第2副会長就任の2年後には、世界200余の国と地域、140万人を有する世界一のボランティア団体の頂点に立ち、これを牽引する壮大な役割と使命を担われることとなります。ライオン山田は我が美濃加茂ライオンズクラブの一員であり、私を含めメンバーの意気込みは一様でないことはお分かり頂けると思います。

山田實紘国際第2副会長立候補者支援委員会によって、現地での支援プログラムも組まれていました。

私たちはインターナショナル・パレードの準備から始めました。市庁舎前の広場ではパレードのスタート待ちでごった返す中、プラカードを作り、のぼり旗を組み立てました。日本の出発は135番目。待つこと2時間余り。「JAPAN！」の号令が掛かり、これを合図に地元学生によるブラスバンドの演奏が始まり、いよいよ出陣です。

私たちは山田夫妻の背後で横断幕を持って行進しました。笑顔をいっぱいに、大きく手を振り「Hello! Hello! こんにちは！ YAMADA! JAPAN! Nice to meet you!」と大声で連呼します。あらん限りの力を振り絞って声を掛けると、沿道の観衆が手を振り、笑顔で応えてくれます。誰もが山田候補を応援しているかのようでとても心強く、楽しく、愉快、爽快なパレードでありました。1・3キロのルートの沿道には観衆が途切れることなく、街全体が国際大会を歓迎していることが伝わってきました。更に、パレード・コンテストのバンド部門で日本が優勝したことはうれしい報告でありました。

総会会場入口では、山田候補の缶バッジを配布しました。世界の誰もが缶バッジを快く受け取ってくれます。中には二つ三つを希望する人もいて、人気の高さを感じました。

ライオン山田は第2回総会で、立候補者演説を分かりやすく流暢な英語でされました。後半には、日本の参加者に向け日本語でのあいさつもありました。その後、候補者を応援するデモンストレーションがスタートしました。「365歩のマーチ」や「東京音頭」など、おなじみの曲に合わせ、プラカードを掲げて「YAMADA! YAMADA!」の掛け声と共に通路を練り歩きました。場内が一体となり、日本人のみならず各国のライオンやレオたちも参加しての盛り上がりに、山田候補の当選を誰もが確信しました。

そして、いよいよ最終日。人道主義大賞の授賞式が終わると、パーマー新会長が新年度の活動目標を手際よく説明されました。その後、プレストン国際第1副会長の当選発表に続き、第2副会長の選挙結果の発表がありました。

パーマー新国際会長が、「Second Vice President ： Jitsuhiro Yamada」と高らかに名前を呼び上げると、大きな拍手に迎えられ、山田夫妻がステージ上手から登場されました。誕生したばかりの第2副会長は両手を大きく振って会場の声援に応えました。それを受けた場内は割れんばかりの歓喜と拍手でいっぱいになり、感激と共に充実感に包まれた瞬間でした。

　国際大会の最後には「ホームクラブ国際第2副会長旗」を受け取り、日本へ持ち帰りました。ブルーが目にまぶしい威厳あるこの旗を、来年のトロント国際大会まで美濃加茂ライオンズクラブで1年間大切にお預かり致します。

　第2副会長の活動は既に始まっています。日本中、いや世界中のライオンズクラブが待ち望んだ日本からの国際会長という偉大な要職を担われる山田副会長を、惜しみなく支援したいと思います。ライオン山田は常々、世界に冠たるボランティア団体として、ライオンズがノーベル平和賞を受賞することについて言及していますが、夢の実現に近付いたと感じています。

　ライオン山田の世界での活躍を祈念すると共に、ホームクラブとして全力で応援して参ります。

　最後になりましたが、絶大なる応援とご支援を賜りました日本の全メンバーに心から感謝申し上げます。

獅子吼

白滝LCイレブンが目指すワールドサイズの夢

大庭　春男（北海道・網走）

　白滝ライオンズクラブ（田中金蔵会長）の会員数は、わずか11人。しかし、この北海道の山あいにある小村のクラブは、331・B地区第2副地区ガバナーを輩出しているのだ。ライオン奥山壽雄である。クラブの全会員が緑のピッチに立つ「イレブン」だとすると、司令塔は田中会長、トップを張るフォワードがライオン奥山。――私には、そう映る。ライオン奥山はクラブきってのトップセールスマンだ。過日、我が網走ライオンズクラブチャーター・ナイト50周年記念式典には、ブラザー・クラブの一員として令夫人（夫人もライオンズ・メンバー）と一緒にご参加頂いた。更に8月2日の納涼例会にもお越しくださり、遠く知床連山を望む網走原生牧場でバーベキューをつつきながら親しく懇談する機会があって、ますます氏のお人柄や行動力、発想の豊かさに惚れ込んだものである。第2副地区ガバナーに選ばれたのも当然――そう感じずにはいられなかった。

　ライオン奥山は大同産業開発㈱の取締役会長を務められ、同社が白滝ライオンズクラブの事務所を兼ねる。元来、進取の精神に富み、今の社業につながる産業クラスター研究会の立ち上げも早かった。地区でいち早くホームページを立ち上げ、ネット発信にも熱心に取り組んでこられた。オンライン報告システム「サバンナ」について指導的役割を果たし続けていることも、印象として光る。

　心憎い演出家でもある。

　その一例。「もうすぐクリスマス！クリスマスの準備はお済みですか?」として夢のある画像データを配信し、「この画像は携帯のデスクトップにお使いください」と書き込んだ。

　ハンブルクで開かれた第96回ライオンズクラブ国際大会にも参加し、その様子を「第5リジョンライオンズクラブのみな様へ」と配信している。それを白滝

イラスト／小川和政

ライオンズクラブのホームページにもアップして、随時閲覧出来るようにした。PR発信能力はライオン奥山の持って生まれた天分かもしれない。

ライオン奥山と接し話をしていると、啓発されるところが大である。まず感激と共感、そしてインパクト。私たちは勇気とパワーをもらう。このようなリーダーを擁することは、私たち第5リジョンの会員にとっても幸福なことではないだろうか。そして、ライオン奥山を支える会員数11人の小さなクラブが、私たちに大きな夢を与えてくれる！

田中会長のスローガンにもスケール感が出ていると思う。「奉仕、小さな組織での挑戦。常に改革で新しい夢の実現を」というのがそれである。このスローガンから白滝クラブ・イレブンのチャレンジング・スピリットの輝きを見て取ることが出来ないだろうか。

そしてここにこそ、人口800人にも満たない林業の町からライオン奥山のような強いリーダーが出現する秘密があるような気がしてならない。2年後、奥山壽雄地区ガバナー誕生のあかつきには、その卓越した企画力と実行力とをもって、リーダーシップを存分に発揮して頂きたいと願っている。

昨春、白滝ライオンズクラブは第58回地区年次大会で大会委員長アワード・ライオン参加登録率賞を受賞。これに対しライオン奥山はクラブのホームページ上に「小さな白滝ライオンズクラブの皆さんの努力が実りました」と、仲間の労をねぎらう言葉と写真を載せている。

白滝小学校はいわゆる山村過疎の町の小さな学び舎だが、同クラブはアクティビティの一環として毎年、新入生に自転車用ヘルメットを寄贈したり、小学生クロスカントリースキー大会を主催したりして、子どもたちに寄り添ってきた。「クロカン」では、この大会が、主役の子どもたち一人ひとりにとって大切な思い出になってほしいという願いから、個人別写真集を編集してプレゼントしている。

温かく優しいイレブンの一面である。

献眼は人としての最後のご奉仕

保久　早苗（広島県・東広島ウエスト）

母の献眼がご縁で、平成3年5月にライオンズクラブに入会致しました。

当時はどこの式典・大会へ伺いましても男性ばかり。女性といえば事務局の方しかおられず、時に不安と躊躇（ちゅうちょ）で途惑いながら活動していた頃が懐かしく思い出されます。

今では、入会順に記される会員手帳の一覧でも自身の名前が上部となり、手帳を見るにつけ、駆け足で過ぎた自分の足跡を振り返っております。頼もしいことに昨今では女性会員も多くなり、友人・知人も増え、年々クラブへの愛着が強く、また深まっていくように感じています。

2年前に献眼推進委員をお引き受けし、以来ライオンズクラブはもとより、県内外の会合・集いの場で角膜移植に関するお話をさせて頂いております。

まず初めに皆様に30秒間目を閉じて頂き、「ご自分の大切な方を何人でも思い浮かべてください」とお願いします。そして「もしその方が、目が不自由で移植手術をすれば明かりが取り戻せる

としたら、うれしいと感じられますか?」と質問してスタートします。当初は資料のみを使って献眼の現状を説明しておりました。が、徐々に、一方的にお話をするのではなく、アイマスク体験や、献眼者及び待機者数を選択形式で挙手して頂くなど、参加型のスピーチにすることで少しでも関心を持って頂けるように、今日まで努めて参りました。

そのかいもあってか、終了後には、「白内障の手術をしているのですが……」「糖尿病の薬を服用しているのですが……」「角膜は何歳まで提供出来ますか?」等々、多様なご質問を頂きます。それにお答えすることで、誰よりも私自身の知識向上となり、また新たな学びの契機となっています。すばらしい機会を与えて頂き、感謝の念に堪えません。

このように皆様の前でお話しするようになった私も、実際に母が献眼した時は、母本人の遺志であったものの、「目が無かったら三途の川を渡れない」と他方から言われ、長い間、自分自身との葛藤の日々がありました。

思い悩んだ末、平成4年に、100人以上の献眼に携わっておられる山県加計ライオンズ（クラブ）の（ライオン）猪原恒男を訪ねました。初対面にもかかわらず、和やかなお話の中に多くの教えをくださいました。「献眼は人として最後のご奉仕」というお言葉に感銘して得心がいき、その後は講演等でも表情豊かに皆様に語れるようになりました。

また「肉体は借り物で魂は残っている。献眼を通じて新たな光となり、提供された方の魂は生き続ける」という信念を得ました。自身の経験を踏まえながら、雑念を排除して、積極的に角膜提供のお手伝いが出来るようになったのです。

今でも母の目はどなたかの新しい光として輝かしい希望となり、私たちをいつも見守って、角膜提供を推進する活動にエールを送ってくれていると信じております。

在籍して22年目の今春4月、336-C地区年次大会で、福永栄一地区ガバナーから献眼功労賞を頂きました。

角膜提供を取り巻く環境には今もさまざまなハードルがあります。が、この受賞の誉れを糧とし、おごることなく、ご厚情に恥じないよう子々孫々まで角膜提供の志を伝え、一人でも多くの方に前向きに向き合って頂けるように足労を惜しまぬ所存です。

身の丈以上の背伸びをせず、見合った歩幅ではありますが、これからもこのすばらしいお役目を務めたいと思っています。

献血との出会いから

生駒 健之輔（熊本県・人吉）

まだ酒もタバコも知らない坊主頭の高校3年生の頃、手術で輸血が必要となった剣道の先生のために行った献血が、始まりであった。

大学進学後、講義が終わり帰寮の際、校内でたまたま移動採血車を見掛け、退屈しのぎに献血。程なくして、近県で行われた子どもの手術に対し「輸血の協力を」と放送が学生寮に入り、午後の講義もなく暇を持て余していたこともあり、手配のバスで2時間程の道程を病院に向かった。前回採血から間もないということで最後まで待機を余儀なくされたが、最終的に採血して夜

遅く帰って来た。

それから約20年間、機会が無く献血から遠ざかっていたが、父と兄が在籍していたライオンズクラブの献血に行くようになった。

青年会議所を卒業し40代に入り、父との交替会員として人吉ライオンズクラブに入会。印刷業という職業柄かＰＲ会報担当を命ぜられ、全ての事業にカメラを持って駆け付け、もちろん献血会場では取材する傍ら献血もした。３カ月ごと（当時必要とされた次回献血までの間隔）に、年2回のクラブ主催と近くの献血会場を探しては参加した。

その頃はただただ献血に行こうとの気持ちだけで、回を重ねていたに過ぎなかった。

数年を経て、殊勝にも自分に出来る社会への奉仕があるのではと考えるようになるまで、こんなにも身近にある「それ」に気付かずにいた。健康な身体をもらったこと、それを献血出来る程に維持出来ていること、その感謝を社会へのお返しとしたい。知らず知らずのうちに社会に貢献していた献血。そうだ、自分に出来る社会へのお返しはこれしかない。以降、年3回の献血はいかなる時も欠くことなく続けて来た。これからもずっと……。

昨年6月、熊本日赤から、60歳で65回目の献血ということで突然表彰頂いた（個人的に行った最初の2回は数に入っていない）。

その矢先の翌7月、表彰とクラブ幹事としての最終例会も終わり喜んで過ごしていたところ、再び突然に九州ブロック血液センターから書状が送られてきた。

それによれば、日本赤十字社では平成24年8月から献血血液の検査基準を変更することになり、新基準では採血不可に該当してしまうため、今後の献血はご遠慮願いたい、とのこと。これをもって私の献血はあえなく一巻の終わりと相成った次第である。

気持ちとは裏腹に、献血出来ない身体であると言われればそれはそれで仕方ない。だが感情的にはにわかに受け入れ難いものがある。遮二無二提供というのではない。安全でなければならないのはもちろんなのだから――。

伝え方に優しさが無い。新しい情報やデータに基づいて、採血基準の見直しが行われるのはもっともなことだ。とはいえ、もう少し丁寧な説明があっても良いと思うのだ。一つ伝えるのに10話す。10話すのに100考える。それでやっと伝わるのが一つ、という程他人への話は伝わり難い。

話が少しズレるが、もしもこの職業ではなく違う道を歩いていたならば、人生も大きく違い、ライオンズにもおよそ縁がなかったかもしれない。となれば社会奉仕、貢献など思いつくこともなく、三献も知らず、運動への思いすらなかったかもしれない。感謝すべきは、まずこの家業へと、父が呼んでくれたことに外ならない。

そう考えると長年出来た献血にも感謝。60歳までの献血によるご褒美としての毎回の血液検査にも感謝の限りである。この先、多分三献とは切れないのかな――。

Close up

ライオンズ歴53年、104歳でクラブ会長に就任

■井手干樹

いで・たてき　1909（明治42）年6月16日、大分県生まれ。博多駅長として勤務している時にライオンズに誘われ、61（昭和36）年に福岡ライオンズクラブに入会。その後転籍し、77年福岡中央ライオンズクラブ会長、79年福岡天神ライオンズクラブ初代会長を務める。2013（平成25）年6月11日、福岡天神ライオンズクラブと博多リバティ ライオンズクラブが合併した福岡天神リバティライオンズクラブの会長に就任。

所属クラブと、ガバナーを輩出している歴史あるクラブが合併することになりまして、初代会長就任の依頼がありました。今年で104歳という高齢ですから、一度はお断りしたんです。ただ、3年前まではゴルフでフルラウンドを回っていましたし、今でも献血の呼び掛けで街頭に立ちますから、高齢だという言い訳がなかなか通らなくてね（笑）。

クラブが合併するに当たり、誰が最初の会長にふさわしいかと両クラブのメンバーで話し合った末、「337-A地区でただ一人100歳を超えるライオンで活動も熱心な井手が会長ならば、二つのクラブはまとまるだろう」という話になったそうです。「細かな部分は他のメンバーがサポートするから」と再度お願いされると断れなくなりました。

ライオンズに入会したのは、ちょうど博多駅の駅長になった51歳の時。現在の博多駅の駅舎は4代目になるのですが、一つ前の3代目が出来た時の駅長が私です。既に外国へ向けた窓口にもなっていた福岡市の発展のためにも博多駅はそれにふさわしいものでなければならないということで、私と誕生した年が同じそれまでのレンガ造りの2階建ての駅舎に取って代わり、地上7階地下1階の新駅舎が開業しました。この駅舎は2010年まで使われていましたから、覚えている方も多いのではないでしょうか。

博多駅駅長室に飾られている歴代駅長の名が刻まれたプレート

1977年に福岡中央ライオンズクラブで、79年にも福岡天神ライオンズクラブで会長の経験があるので、会長就任は今回で3度目。今年6月11日に行われた合併式では、「異なるクラブの人たちが一緒になるわけだから『親睦、親愛』を第一に、身も心も健やかに奉仕活動を行っていきましょう」と宣言してきたところです。

「健やか」であることの秘訣をよく聞かれます。その度に「健康第一を心掛けて生活するために行う努力は並大抵ではない」と申し上げています。健康維持について話し出すと1時間あっても足りないのですが、簡単に言うと、野菜を中心とした「栄養」と十分な「休養」。体力に見合った「運動」と適度な「水分補給」です。これをお話しすると、皆さん決まって「普通で当たり前じゃないか」と言いますが、それを続けることがいかに大変なことか。私が言うのですから間違いありません。

構成／砂山幹博　写真／田中勝明

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第4刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第3刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う
第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100〜499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオンズスクール・シリーズ　注文書

●ライオンズスクール初級編『ライオンズクラブ入門』……………… 部
●ライオンズスクール中級編『クラブ運営の基礎知識』……………… 部
●ライオンズスクール上級編『リーダーシップを養う』……………… 部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

ふるさと探訪

手筒花火が轟く、三州吉田をそぞろ歩く

愛知県 豊橋市

文／砂山幹博　写真／田中勝明

豊橋

TOYOHASHI

愛知県 豊橋市

中世から江戸時代まで市の中心部は吉田と呼ばれ、江戸時代には吉田藩の城下町、吉田宿の宿場町、豊川水運で栄えた港町であった。1869年の版籍奉還で、吉田から豊橋に改称された。現在は、5市3町1村からなる東三河地域の中核をなす都市。東は弓張山系を境に静岡県と接し、南は太平洋、西は三河湾に面しており、豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。

総面積／261.35平方キロ

総人口／380,166人（2013年8月1日現在）

1925年に開通した豊橋鉄道市内線の路面電車。今も市民の足として親しまれている

夜空を彩る炎の祭典

火柱が噴き上がり、火の粉が雨のように降り注ぐ。やがて爆裂音と共に火が大きく爆ぜると、一面に火薬の臭いと白煙が立ち込め、見物人からは歓声が沸き起こった。

豊橋市の吉田神社では毎年7月第3金土日曜日の3日間で豊橋祇園祭が行われる。その幕開けを告げるのが、吉田神社が発祥と言われる手筒花火の奉納だ。東三河地域と静岡県の一部にだけ伝わる手筒花火は、縄を巻いた竹筒に火薬を詰め込み人が抱えて上げる花火。

手筒花火は地上に寝かせた状態で点火される。
抱え手は経験豊富な年配の点火者の指示で、
少しずつ手筒を起こしていく

江戸時代、徳川家康の編成した鉄砲隊が火薬の取り扱いを故郷の弟子たちに伝授したことから、古来、三河では花火が盛んであった。もともとは戦国時代の狼煙がルーツだというが、江戸時代に黒色火薬が使われ始めると、煙だけでなく鑑賞に耐え得る現在のような花火が作られるようになった。

手筒花火は地上に寝かせて点火し、安全を確認してから抱え上げる。火の勢いは徐々に強くなり、火柱の高さは10㍍にもなるが、男衆は降り注ぐ火の粉を全身に浴びながら仁王立ちでじっと同じ姿勢のまま耐え続ける。その昔、男性は手筒花火を経験して初めて成人と見なされた。危険を恐れず手筒花火を抱える行為は、勇気の証であり男の美学でもあったのだ。

祭りの当日、各町内の青年会部が、木枠に大筒花火を乗せて町内を練り歩く。町内を巡った後、花火は吉田神社に奉納される

手筒花火最大の魅力は花火のクライマックスに轟く「ハネ」である。着火から40～50秒後、爆裂音と共に手筒の底が抜けるハネを迎えて花火は終了となる。手筒を抱える人にすれば「緊張からの解放感と、成し遂げた達成感の両方を味わえる最高の瞬間」なのだという。

身体を張って打ち上げる手筒花火は、竹の切り出しから火薬詰めまでを全て自分たちで行うというのも、この地域に代々伝承されてきた文化だ。8カ町の氏子それぞれに秘伝の製造方法があるそうだが、基本は同じ。火薬の取り扱いは法律で規制されているため、花火を作る氏子は毎年講習を受けることが義務づけられている。火薬を詰めるのは祭りの前日。火薬と共に混ぜる鉄粉の大小で、噴き上げる火柱の勢いや音を変えることが出来る。

祭の当日、午後6時からの宵祭の後、大筒花火などと共に、今年は315本の手筒花火が奉納され、勢いよく上がる火柱が夏の夜空を赤く彩った。

名物のウズラ料理。卵の串は殻付きで、姿焼きは頭が付いたまま骨ごとバリバリ頂くのが豊橋流

ウズラ卵の生産日本一を誇る豊橋には、日本で唯一のウズラ専門農協（豊橋養鶉農業協同組合）がある

全国一のウズラ王国

手筒花火が盛んな東三河地域は、温暖な気候と豊かな水に恵まれた全国有数の農業生産地としても知られる。トマト、スナップエンドウ、大葉（しその葉）など全国トップクラスの生産高を誇る品目が多くある。特にウズラ卵は全国生産量の約60%を東三河が占め、中心地である豊橋では、18の生産者が250万羽のウズラを育てている。

現在、野生のウズラは絶滅危惧種に指定されているが、元々はキジ科の渡り鳥で日本中に生息していた。大正10年頃から豊橋を中心にウズラの飼育が始まり、近年家禽として飼養されているのは野生ウズラを多産型に改良したもの。発育が早く、17日目に孵化し、生後約40日目から卵を産み始め、その後、年間約250個というハイペースで産卵し続ける。

昔からウズラ卵は栄養豊富、滋養強壮に良い食材として知られ、東洋医学ではマムシや朝鮮人参と並んで三大滋養薬に数えられる。戦後の食糧難で重宝された後、病院食や学校給食などに採用されるようになり急速に普及した。ウズラ卵には、鶏卵と比較してもビタミン群やミネラル分が豊富に含まれており、体調に合わせて1個2個と数の調整をしやすいとあって、子どもから年配の方までおいしく食べられる栄養補給源として利用されてきた。

生卵か水煮での出荷がほとんどだったが、近年、消費拡大のためにこれまで接点のなかった業種とのコラ

豊橋筆は、高級筆として書家からの評価も高い（撮影協力：柴田祥雲堂／ライオン柴田高志）

帆前掛け姿で微笑むのは、豊橋ライオンズクラブのメンバー

ボレーションが試されている。例を挙げると、エビせんべいの原料に使ったところ、柔らかな食感が得られるなどの好評を得、原料としてのウズラ卵が見直されている。現在は、洋菓子や加工食品といった製品に利用され、意外なところで口にする機会も増えている。

今なお求められる伝統産業

藩政期には木綿の産地として、明治以降は製糸業が発展した豊橋。そんな背景もあって、手筒花火の時に着られる刺子半纏や、日本の伝統的な仕事着の一つ「帆前掛け」が、今も作られている。帆前掛けの由来は、船の帆に使われる帆布で作られたからというが、丈夫で使い勝手が良かったため、戦後に造り酒屋や商店で働く人たちが愛用。後に銘柄やロゴを入れたことで販売促進ツールとして一気に全国へ広まった。最近では、どこか懐かしさを感じるデザインから、カフェや美容室など全く新しい分野でも使われているようだ。また、外国人向けに「バーベキューエプロン」と名付けて売り出したところバカ売れ。土産品や贈り物としても人気がある。

豊橋市には、もう一つ古くからの地場産業がある。現在もほとんどが伝統的な技法で作られる「豊橋筆」だ。吉田藩の学問所に招かれた京都の筆匠が作ったのが最初と言われ、その後は筆の材料であるイタチやタヌキの毛が豊川河畔で入手出来たので、下級武士の副業として発展した。しかも分業ではなく最初から最後まで一人の職人が作り上げるため、書道家などの要望に応えながら技術が高められていった。

最盛期の昭和40~50年代には約3千人の職人がおり、50年代以降に芸術書道が盛んになると、ますます高級筆のニーズが高まった。「墨含みが良く、墨はけが遅い」と使い勝手の良さが評価され、現在も書道用を中心に工芸用、日本画用など高級筆のシェアでは全国の約70%という生産量を誇る。

染色した生地を水洗いした後、乾燥させ、裁断、縫製し、帯を付けると帆前掛けが完成する

▼取材協力クラブ

豊橋ライオンズクラブ（高橋英嘉会長／69人）＝1958年4月3日結成／スポンサー：名古屋サウスライオンズクラブ／クラブを代表するアクティビティは、36年間続いている皇居勤労奉仕。毎年市民から参加者を募り、4泊5日の行程で皇居と赤坂御用地で除草、清掃、庭園作業などを行う。クラブが趣向を凝らすオプションの東京観光も人気で、これまで延べ1800人が参加している。

読者から―8月号

■国際大会にぜひ参加を

ハンブルク国際大会の写真リポートを見ると、国際大会の雰囲気が伝わってきます。参加しなかった私もパレードに参加してハンブルク市民の歓迎を受けている気持ちになりました。今回は日本からの参加が多いとのことでしたが、多くのライオンが国際大会に参加したくなる記事に感謝致します。国際大会はライオンズクラブを通して世界につながっていることを実感出来る貴重な機会だと思います。ぜひ皆さんに国際大会を体験して頂けたらと願っています。

山口県・楠ライオンズクラブ●武波博行

■「夢を持つ」ことから

まだ十代だったあるお正月。年始のあいさつを終えた父が私たち姉妹にこう言った。「お前たちの今年の抱負を言いなさい」。

私も姉もただうつむいてしまい、数分の静寂が流れた。そして、父の怒鳴り声が響いた。

その頃から今も大して変わらず、ただ目の前に出来た道を何となく歩いて来たように思う。

国際会長のテーマは「夢を追いかけよう」だ。寝食を忘れて何かに没頭したこともなく、ぼんやり生きてきた私の場合は夢を持つことからかもしれない。追いかけて叶える夢をライオンズの奉仕の中に見つけられるのだろうか。まだ遅くはないと背中を押されたような気がした。

京都薫風ライオンズクラブ●藤田弘美

■ローテク、ローカルの力強さ

「被災地のライオンズは今」で紹介された笹かまぼこメーカーの再建譚は、製造に関わる全ての施設を失った中、手焼きという50年前の手法を、高齢の創業者ご夫妻が若い従業員に伝授することからスタートしました。それがやがて新工場の建設、復興に向けた本格的な操業につながりました。ハイテク、グローバルが喧伝される時代に、ローテク、ローカルの力強さ、逞しさを感じました。直接の関係はありませんが、ライオンズのアクティビティでも、例えば目の前に落ちているごみを拾うといった、身の回りの小さなことを忘れたくないものです。

福岡舞鶴ライオンズクラブ●荒巻敬一郎

●ライオン誌事務所来訪者芳名録

8・2 岐阜県瑞浪 五十嵐貞夫
8・7 沖縄県八重山 識名安信
8・19 東京葛飾 奥山貞夫
8・19 東京荒川西 冨田昌雄
8・29 千葉 岡野正義

読者プレゼント

■豊橋の帆前掛けと化粧筆を各5人に

今月号ふるさと探訪の取材にご協力頂いた愛知県・豊橋ライオンズクラブから、記事で紹介した帆前掛けと、豊橋筆の化粧筆（柴田祥雲堂）がそれぞれ読者5人にプレゼントされます。

■南三陸のモアイタオルを10人に

「被災地のライオンズは今」で紹介した宮城県南三陸町で作られたモアイタオルを10人の読者にプレゼントします。LCIF東日本大震災指定交付金を受けている同町「のぞみ福祉作業所」の自主製品で、作業所の利用者が描いたモアイの絵をデザインに取り入れたフェイスタオルです。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「帆前掛け」「化粧筆」もしくは「モアイタオル」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は10月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=c.／第2問=b.／第3問=a.／第4問=b／第5問=a.

もう一度読みたい「あの記事」

●1994年7月号　獅子吼

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

「10年が経ちました」

坂本文正（兵庫県・神戸須磨ライオンズクラブ）

神戸須磨ライオンズクラブに入って10年が経ちました。入会当初から今まで、私の中で変わらないのは、考えてばかりで何もしないよりは何かをしたいというアクティビティに対する考え方です。そういう目で見ると、このところクラブ予算に占めるアクティビティ関連予算の割合が、年々減少しているように思え、内心忸怩たるものがあります。

ただ、適当な実施先を探しあぐねているといった面も否定しきれず、世の中の動きに旧来の奉仕観がついていけていないのではないか、と考え始めています。そこで、有志で「アクティビティ研究会」を組織して研究をしていますが、いまだ光明見いだせず、といったところです。

運営一般に関しては、長老会員の発言力が強く、それが若手の事なかれ主義を醸成し、クラブの活況が失われつつあると認識しています。処方箋として委員会活動が挙げられますが、これを声高に叫んでも、効果は少ないものです。やはり各委員会の権限の確立と、それぞれの自覚の問題になるのでしょう。昨年度、結成30周年記念事業を担当しました。そこで、委員会活動の充実を第一義に挙げて実践してみましたが、なかなか思うようにはいきませんでした。

ライオンズで一番面白いと思ったのは、人間関係です。仲のこじれた会員がいました。原因は極めて個人的なもので、しかもお互いに妥協を知らずといったところでしょうか。その後、お二人がどのように折り合いをつけていくのか気になりましたが、さすが人生の経験者。双方無視するわけでなく、またとりたてて仲良く振る舞うわけでもなし、といった風情で、大いに参考になりました。

入会してすぐ気になったのが、退会者に対する扱いでした。入会時には大騒ぎするのに、退会者には冷た過ぎるのではないかと感じたものでした。各自何らかの事情を踏まえた上での決断でしょうから、それなりのセレモニーがあってもいいと思いました。そこで有志でお別れの会を企画するようにしています。いずれの場合も定年退職者を送るような一抹の寂しさを感じてきました。退会後も季節のお便りなどを頂くと、やって良かった、と思わずにはいられません。

私事で恐縮ですが、昨年暮れ、妻が急逝しました。その妻が、生前、「酒を飲み、繁華街をうろつく口実であり、旅行をする口実」だと、ライオンズクラブを語っていました。が、口とは裏腹に、安心して送り出してくれていたように思われ、亡妻なりに、クラブ会員に対する信頼があったのだろうと思っています。

奉仕団体と社交クラブとしての一面の綱の引き合いは、当然ありうべきことです。が、最近は良き社交クラブであるためには、奉仕団体としてのしっかりとした理念が必要と、つくづく思うようになりました。入会しても長続きしない人が多いのは経験から分かっています。最近、とみに会員増強が標榜されていますが、それも良き会員の増強でなければ意味がありません。

この先10年後、「20年が経ちました」と書けるかどうかは、良き会員が増えるかどうかにかかるわけで、更に言えば、私が良き会員になれるかどうかにも関わってくると思います。

ライオン誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

何でも日本一

■クラブ数、会員数の多い市町村

全国でクラブ数、会員数が最も多い市町村はどこか？ クラブ数も会員数も、実数が多いのは人口の多い大都市。そこで全国の政令指定都市と、旧東京市に相当する東京都区部のクラブ数、会員数（13年7月末）を調べてみた。別表の通り、クラブ数、会員数共に最多は東京都区部で、2番目は大阪市。全国20の政令指定都市のうち、市内に30以上クラブがあるのは大阪市を含む7都市だった。このうち、各都市の法定人口に対するライオンズ会員の比率が最も高かったのは京都市で、市民820・5人に1人が会員ということになる。人口に対する会員の比率は小さな市町村の方が高くなる。全国で最も高いのは、人口3154人の北海道黒松内町。黒松内ライオンズクラブの会員数は62人で、町民50・9人に1人が会員だ。

■クラブ数・会員数の多い市町村

	クラブ数	会員数	会員1人:人口
東京*	165	3,787	2,363.2
大阪市	70	1,886	1,413.8
京都市	55	1,797	820.5
横浜市	54	1,142	3,230.8
福岡市	42	1,470	995.8
札幌市	38	1,297	1,478.4
名古屋市	36	1,264	1,791.1
神戸市	31	751	2,057.1

*東京23区　（2013年7月末 eMMR ServannA）

この日・この月

10月16日は国連が制定した世界食料デー。世界では約8億7千万人、8人に1人が慢性的な飢餓に苦しんでいる。発展途上国において、栄養不良により5歳になる前に命を落とす子どもの数は毎年500万人に上る。日本ではこの問題に取り組むNGOや国連機関が協力し、10月を「世界食料デー」月間として情報発信やイベントを実施。「みんなで食べる幸せを」をテーマに、世界の現状を知り、自分に出来ることを考え行動しようと呼び掛けている。詳しくは「世界食料デー」月間2013のウェブサイト（www.worldfoodday-japan.net）で。

■訂正とお詫び

8月号50ﾍﾟｰｼﾞ「ライオンズ・ニュース・カセット」にある89・90年度国際第1副会長の氏名は、正しくはライオン小川清司でした。

今月号の記事から

THEME「ライオンズクラブ統計」（5～11ﾍﾟｰｼﾞ）の「クラブ・アンケート」には、昨年度の入退会者の性別や年齢、退会者の在籍年数などのデータを複合地区別に集計しています。自クラブのデータと比較しながら、今後の会員増強策について話し合ってみてはいかがでしょう。

★本誌バックナンバーはEブック形式で公開しておりますのでご活用ください。

次号予告

THEME **地域の魅力発信**

人気沸騰のゆるキャラや、行列の出来るB級グルメ。いずれも地域の魅力を発信して、町おこしを図ろうという取り組みだ。その土地の伝統や自然など地域の魅力を掘り起こし、それを活性化につなげようと取り組むライオンズクラブの活動をリポートする。

クイズde例会

〈第1問〉国際協会が定める会則地域。世界にいくつの地域がある？

a. 5　b. 6　c. 7

〈第2問〉次のうち、日本と同じ東洋・東南アジア地域に属していない国は？

a. グアム　b. インドネシア
c. モンゴル

〈第3問〉次のうち、会員数上位5カ国に含まれる国は？

a. ドイツ　b. フランス
c. イタリア

〈第4問〉本誌の2012-13年度統計（今月号THEME）で、昨年度中に退会した会員のうち、在籍年数が5年未満だった人は何割？

a. 3割　b. 4割　c. 5割

〈第5問〉本誌の2012-13年度統計で、全国のクラブによるアクティビティのうち最も金額が多かった分野は？（「その他」を除く）

a. 青少年関係　b. 障害者福祉
c. 環境保全

★回答は54ﾍﾟｰｼﾞ下

2013-14年度『ライオン誌』日本語版編集方針

ライオン誌
日本語版編集長
◉
団　英男
(兵庫県・神戸みなと)

『ライオン誌』日本語版は1958年の創刊以来、国際協会の公式機関誌として国内外のタイムリーな情報を報じ、また各複合地区、準地区、そしてクラブの動向などを詳細にお伝えして参りました。

前年度委員会は誌面の文字をより大きく太くし、また写真を効果的に活用するなど読みやすい誌面作りに取り組み、読者会員の皆さんから好評を頂きました。今年度委員会はより一層親しみの持たれる『ライオン誌』を目指し努力を重ねる所存です。

今年度はバリー・J・パーマー国際会長のテーマ「夢を追いかけよう」(Follow Your Dream)を誌面で表現して参ります。

1．連載「被災地のライオンズは今」を始め東日本大震災関連記事で、被災地や被災者の方々へ「夢」を届ける支援につながる報道を心掛けます。

2．来るライオンズ100周年に向けて、過去の資料・情報をデータベース化し、ライオンズの「夢」を育むために役立つ情報整理に努めます。

3．前年度に引き続き、全国のメンバーの意見交換の場となるフォーラムを開催し、ライオンズの「夢」を大いに語って頂くTHEMEを企画します。

4．日本から34年ぶりとなる国際会長誕生に向けて、山田實紘国際第2副会長を側面から支援し、日本ライオンズの一つの「夢」の実現に向けた歩みを報じていきます。

5．ライオンズの「夢」がいっぱい詰まった本誌を活用する「ライオン誌例会」により、クラブ活性化を図って頂けるよう「EDITORS ROOM」等の関連企画の充実を図ります。

6．前年度発刊したライオンズ新書01『ライオンズ力を高める』に引き続き、会員が「夢」を実現していくためのガイドブックとなる、有益な新書を発刊して参ります。

委員会及び編集スタッフ全員の力を結集して、大きな「夢」を描いて頂ける誌面となるようがんばります。読者会員の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

Official publication of Lions Clubs International

EXECUTIVE OFFICERS
President Barry J. Palmer, PO Box 200, Berowra, NSW 2081, Australia; Immediate Past President Wayne A. Madden, PO Box 208, Auburn, Indiana 46706, USA; First Vice President Joseph Preston, Dewey, Arizona, USA; Second Vice President Jitsuhiro Yamada, Gifu, Japan.

DIRECTORS
Second year directors
Benedict Ancar, Bucharest, Romania; Jaime Garcia Cepeda, Bogotá, Colombia; Jui-Tai Chang, Multiple District 300 Taiwan; Kalle Elster, Tallinn, Estonia; Stephen Michael Glass, Bridgeport, West Virginia, USA; Judith Hankom, Hampton, Iowa, USA; John A. Harper, Cheyenne, Wyoming, USA; Sangeeta Jatia, Kolkata, West Bengal, India; Sheryl May Jensen, Rotorua, New Zealand; Stacey W. Jones, Miami Gardens, Florida, USA; Dr. Tae-Young Kim, Incheon, Korea; Donal W. Knipp, Auxvasse, Missouri, USA; Sunil Kumar R., Secunderabad, India; Kenneth Persson, Vellinge, Sweden; Dr. Ichiro Takehisa, Tokushima, Japan; Dr. H. Hauser Weiler, Kilmarnock, Virginia, USA; Harvey F. Whitley, Monroe, North Carolina, USA.

First year directors
Fabio de Almeida, Guarulhos SP, Brazil; Lawrence A. "Larry" Dicus, Whittier, California USA; Roberto Fresia, ; Alexis Vincent Gomes, Pointe-Noire, Republic of Congo; Cynthia B. Gregg, Belle Vernon, Pennsylvania, USA;Byung-Gi Kim, Korea; Esther LaMothe, Jackson, Michigan, USA; Yves Léveillé, Howick, Quebec, Canada; Teresa Mann, Hong Kong, China; Raju V. Manwani, Mumbai, India; William A. McKinney, Highland, Illinois, USA; Michael Edward Molenda, Hastings, Minnesota, USA; John Pettis, Jr., Merrimac, Massachusetts, USA; Carl Robert Rettby, Neuchatel, Switzerland; Emine Oya Sebük, Istanbul, Turkey; Hidenori Shimizu, Gunma, Japan; Dr. Steven Tremaroli, Huntington, New York, USA.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

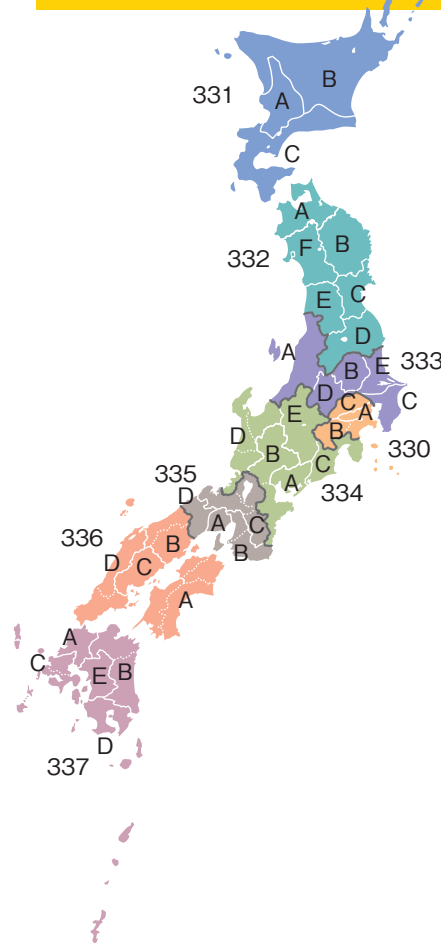
ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　武久一郎
国際理事　清水英徳
委員長　茂尾　実（331複合地区）
編集長　団　英男（335複合地区）
委員　大熊泰雄（330複合地区）
委員　佐藤義則（332複合地区）
委員　小西宗仁（333複合地区）
委員　大村行範（334複合地区）
委員　組嶽晶一（336複合地区）
委員　田崎登保（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2013.8.31　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	期首からの増減
330-A	東京	202	4,868	4,153	715	64
330-B	神奈川·山梨·東京	170	4,674	4,070	604	44
330-C	埼玉	93	2,204	1,979	225	-1
330	計	465	11,746	10,202	1,544	107
331-A	北海道(道央)	72	2,403	2,230	173	44
331-B	北海道(道北·道東)	88	2,418	2,292	126	24
331-C	北海道(道南)	53	1,783	1,581	202	25
331	計	213	6,604	6,103	501	93
332-A	青森	66	1,919	1,606	313	69
332-B	岩手	53	2,182	1,563	619	28
332-C	宮城	74	1,543	1,247	296	-4
332-D	福島	73	1,977	1,786	191	39
332-E	山形	56	1,791	1,599	192	19
332-F	秋田	48	1,337	1,048	289	9
332	計	370	10,749	8,849	1,900	160
333-A	新潟	75	2,776	2,478	298	-1
333-B	栃木	53	1,392	1,045	347	23
333-C	千葉	142	3,470	2,874	596	-20
333-D	群馬	52	1,976	1,617	359	-15
333-E	茨城	80	2,850	2,556	294	21
333	計	402	12,464	10,570	1,894	8
334-A	愛知	120	5,050	4,487	563	60
334-B	岐阜·三重	82	4,261	3,257	1,004	18
334-C	静岡	82	3,095	2,957	138	35
334-D	富山·石川·福井	99	3,844	3,591	253	27
334-E	長野	52	1,960	1,735	225	29
334	計	435	18,210	16,027	2,183	169
335-A	兵庫(東)	90	2,159	1,866	293	11
335-B	大阪·和歌山	180	5,421	4,767	654	41
335-C	滋賀·京都·奈良	119	3,906	3,570	336	74
335-D	兵庫(西)	65	1,876	1,655	221	11
335	計	454	13,362	11,858	1,504	137
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	149	5,389	4,755	634	90
336-B	鳥取·岡山	96	3,068	2,759	309	3
336-C	広島	101	3,344	3,134	210	19
336-D	島根·山口	96	3,088	2,875	213	22
336	計	442	14,889	13,523	1,366	134
337-A	福岡·長崎	115	4,486	3,895	591	43
337-B	大分·宮崎	72	2,290	2,112	178	26
337-C	佐賀·長崎	83	3,038	2,533	505	39
337-D	鹿児島·沖縄	80	2,332	2,125	207	18
337-E	熊本	58	1,559	1,400	159	27
337	計	408	13,705	12,065	1,640	153
総計		3,189	101,729	89,197	12,532	961
世界のライオンズの		6.9%	7.5%	8.8%	3.7%	

世界のライオンズ

2013.8.31　国際協会集計

ライオンズ国または領域	208
世界のクラブ数	46,263
世界の会員数	1,349,059
※男性会員数	1,013,118
※女性会員数	335,941
期首からの増減	1,655

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	11,965	335,650	-2,114
インド	6,199	227,381	1,701
韓国	2,071	78,795	538

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書／ライオンズ文庫

ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める 新刊

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。

新書判
224ページ
1部500円·送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部450円／500部以上400円

ウィ·サーブ

日本にライオンズクラブが誕生した1952年から2002年まで、日本ライオンズ50年間の歴史。

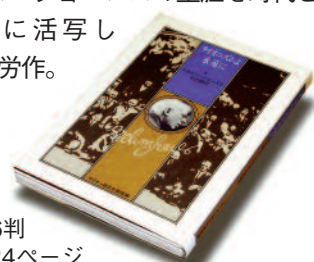
B6判
332ページ
1部800円·送料実費

ライオンズ新書02 LCIF早分かり 新刊

ライオンズクラブ国際財団の目的やその仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。

新書判
176ページ
1部400円·送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部350円／500部以上300円

ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン·ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。

B6判
224ページ
1部800円·送料実費

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名·クラブ名·お名前·ご住所·お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書·振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

● 『ライオンズ力を高める』成り立ちから組織、運営まで分かる簡単ガイド ……………… 部
● 『LCIF早分かり』世界ナンバー1 NGOの簡単ガイド ……………… 部
● 『ウィ·サーブ』日本ライオンズ半世紀の航跡 ……………… 部
● 『ライオニズムよ永遠に』メルビン·ジョーンズとその時代 ……………… 部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

のぞみ福祉作業所

宮城県南三陸町の「のぞみ福祉作業所」は東日本大震災によって作業所が全壊し、利用されていた障害者の方お二人が、津波の犠牲となりました。更に、作業を受注していた町内の企業も被災したことから、震災後は全く仕事が入らない状態でした。その後、LCIF東日本大震災指定交付金の支援を受け紙すき道具を導入。現在は、利用者の方が描いた絵を使ったオリジナルの絵はがきなどの自主製品を作り、「南三陸さんさん商店街」で販売しています。

利用者が描いた、南三陸町復興の新たなシンボル「モアイ」をモチーフにしたフェイスタオルやポストカードも加わり、自主製品のラインアップは徐々に増えています

のぞみ福祉作業所
宮城県本吉郡南三陸町志津川字袖浜93-1
TEL.0226-46-5129　FAX.0226-29-6858

ライオン誌10月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2013年(平成25年)9月20日発行　毎月1回20日発行　第56巻第4号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社